

## 第2章 調査結果のあらまし



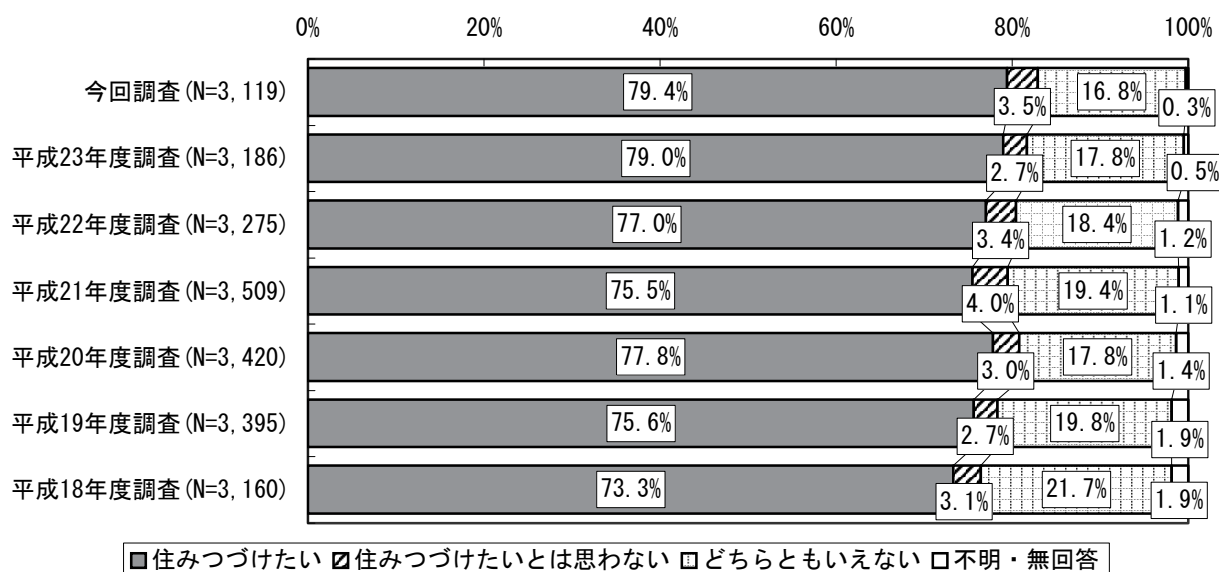
# 1. 県政全体に関する満足度

## (1) 定住意向

問6 あなたは、これからも滋賀県に住みつづけたいと思いますか。(〇は1つだけ)

### ◆「住みつづけたい」は全体の79.4%

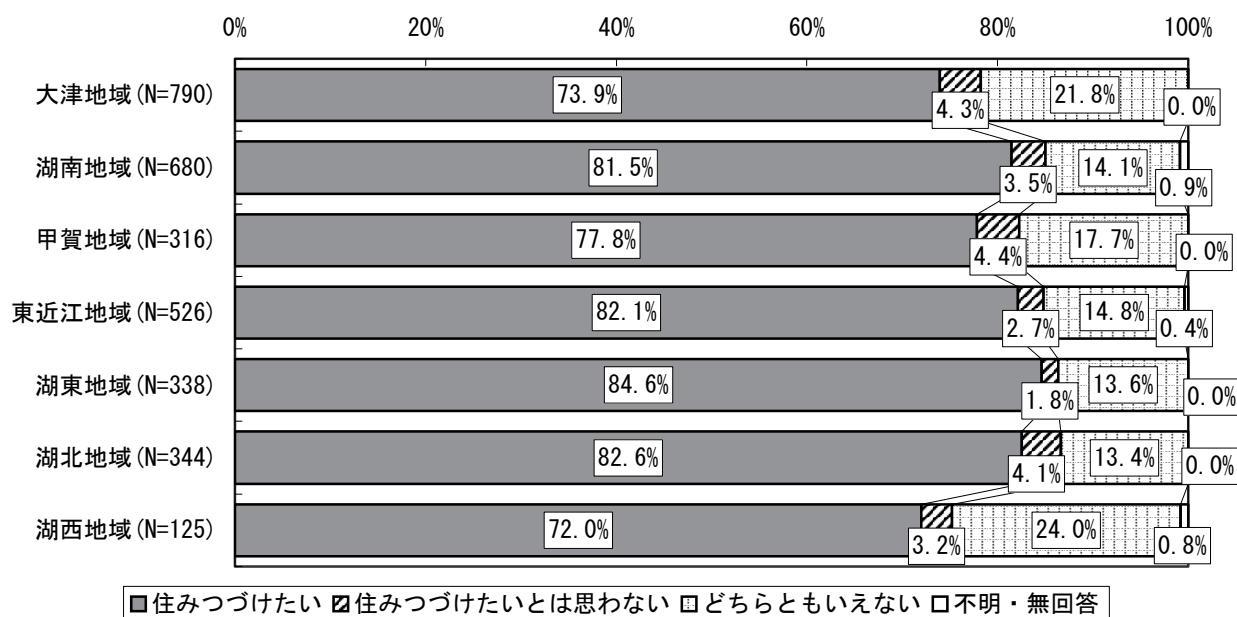
定住意向については、「住みつづけたい」が79.4%で最も多く、平成23年度調査と比較すると0.4ポイント増加している。また、「住みつづけたいとは思わない」は3.5%で平成23年度調査と比較すると0.8ポイント増加している。「どちらともいえない」は16.8%で、平成23年度調査と比較すると1.0ポイント減少している。



### 【地域別】

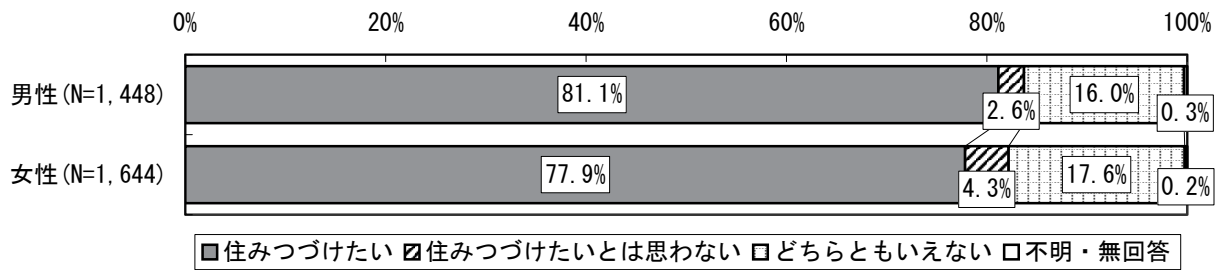
いずれの地域においても「住みつづけたい」が7割を超えており、湖東地域が84.6%で最も多く、湖西地域が72.0%で最も少なくなっている。

また、「住みつづけたいとは思わない」は甲賀地域や大津地域、湖北地域では4%台で、他の地域に比べてわずかに多い。



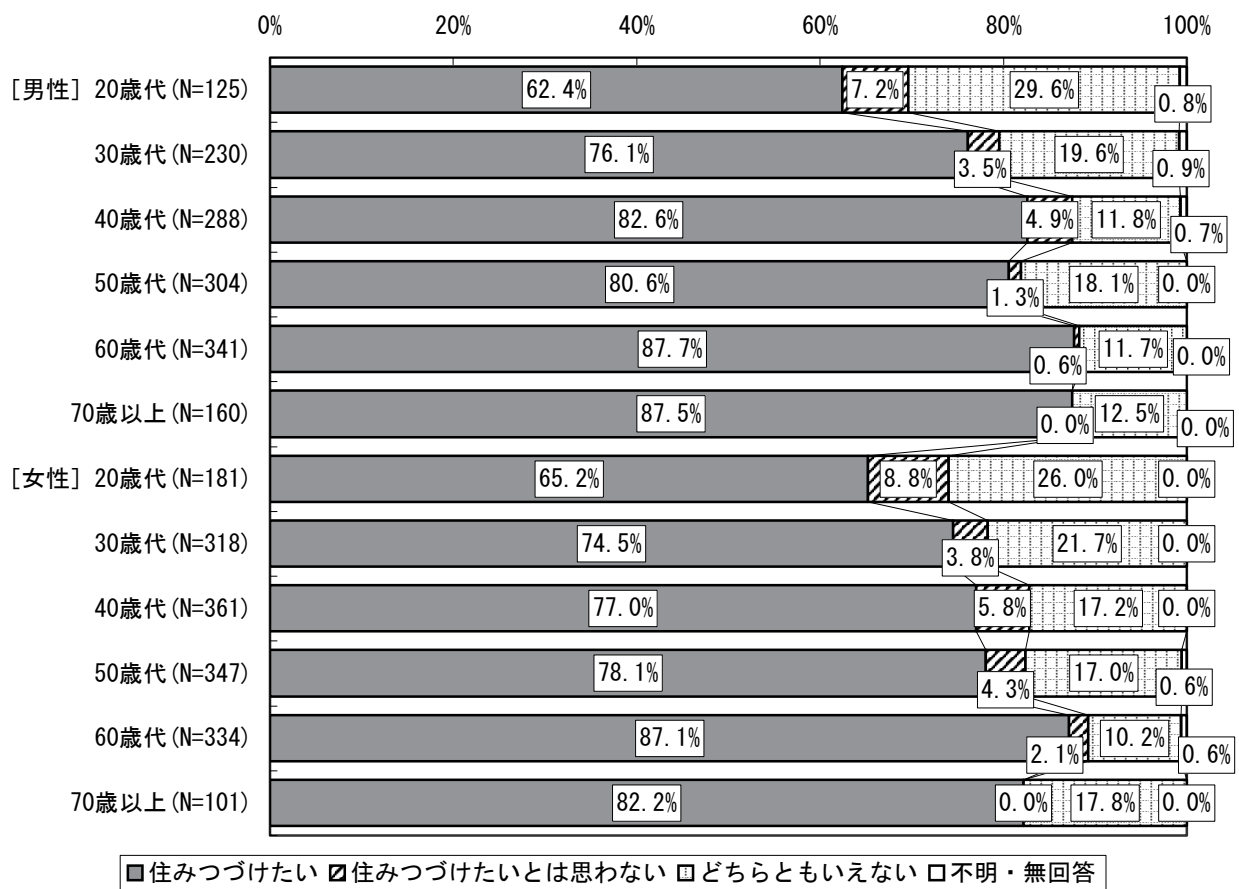
【性別】

男女とも「住みつづけたい」が7割を超え、男性が81.1%、女性が77.9%となっている。



【性・年代別】

「住みつづけたい」は、男女ともに60歳代が最も多く、男性が87.7%、女性が87.1%となっている一方、男女ともに20歳代で最も少なく、男性が62.4%、女性が65.2%となっている。

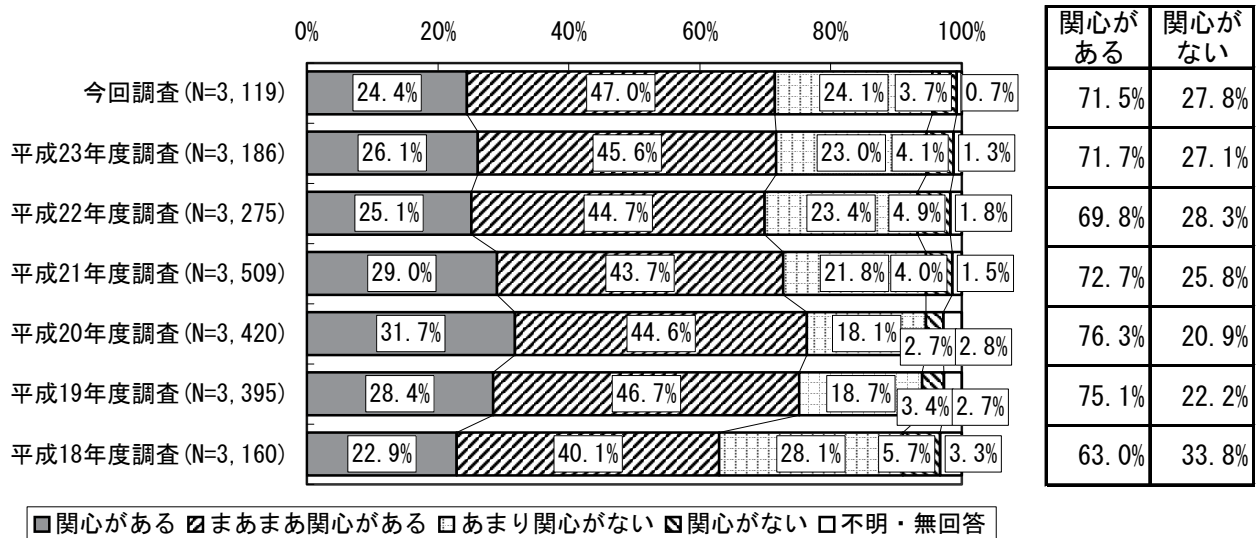


(2) 県政への関心度

問7 あなたは、県政に関心をお持ちですか。(〇は1つだけ)

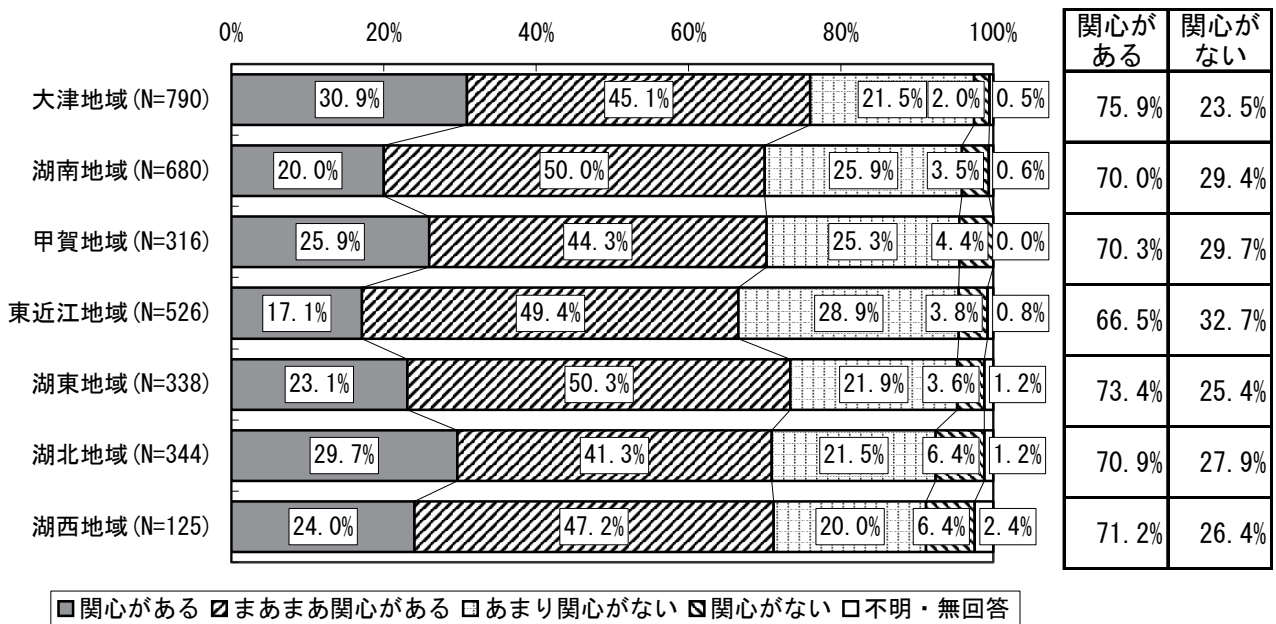
◆県政への関心度は71.5%

県政への関心度については、「関心がある」が24.4%、「まあまあ関心がある」が47.0%となっており、『関心がある』（「関心がある」と「まあまあ関心がある」の合計）は71.5%で、平成23年度調査と比較すると0.2ポイント減少している。『関心がない』（「あまり関心がない」と「関心がない」の合計）は27.8%で、平成23年度調査と比較すると0.7ポイント増加している。



【地域別】

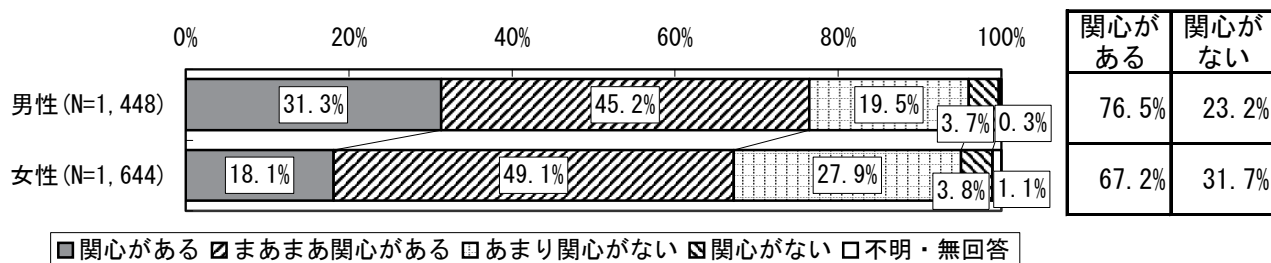
いずれの地域においても「まあまあ関心がある」が最も多く、『関心がある』は大津地域が75.9%で最も多く、『関心がない』は東近江地域が32.7%で最も多くなっている。



### 【性別】

「関心がある」は男性が31.3%、女性が18.1%となっており、男性が女性に比べて13.2ポイント多くなっている。

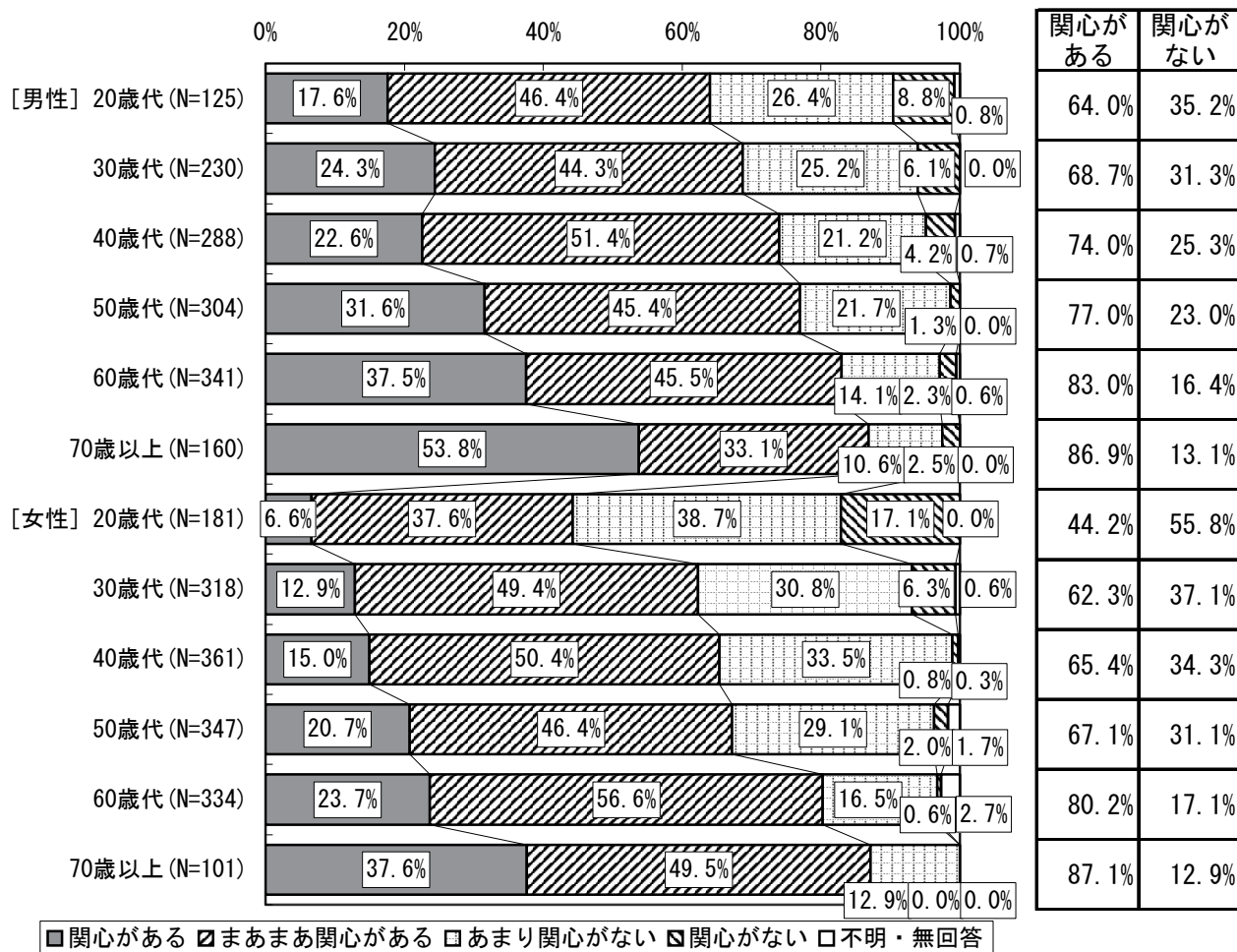
『関心がある』は男性が76.5%、女性が67.2%となっており、男性が女性に比べて9.3ポイント多くなっている。



### 【性・年代別】

「関心がある」は、女性では年代が高いほど多くなっており、70歳以上では37.6%となっている。また、男性の70歳以上では53.8%と5割を超えている。

『関心がある』は男女ともに年代が高いほど多くなっており、70歳以上では、男性が86.9%、女性が87.1%となっている。



(3) 県の施策に対する満足度

問8 県政における次の項目について、あなたはどの程度満足していますか。1～27のそれぞれの項目について、右の欄の1～6の中からあなたの満足度合いに最も近いものを選んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

下の表に示す27項目について、『満足度』を調査した。

1. 「満足」
2. 「どちらかといえば満足」
3. 「どちらともいえない」
4. 「どちらかといえば不満」
5. 「不満」
6. 「わからない」

を選択肢とし、本報告書では『満足度』（「満足」と「どちらかといえば満足」の合計）と『不満度』（「どちらかといえば不満」と「不満」の合計）に着目して、分析を行った。

■県の施策（27項目）

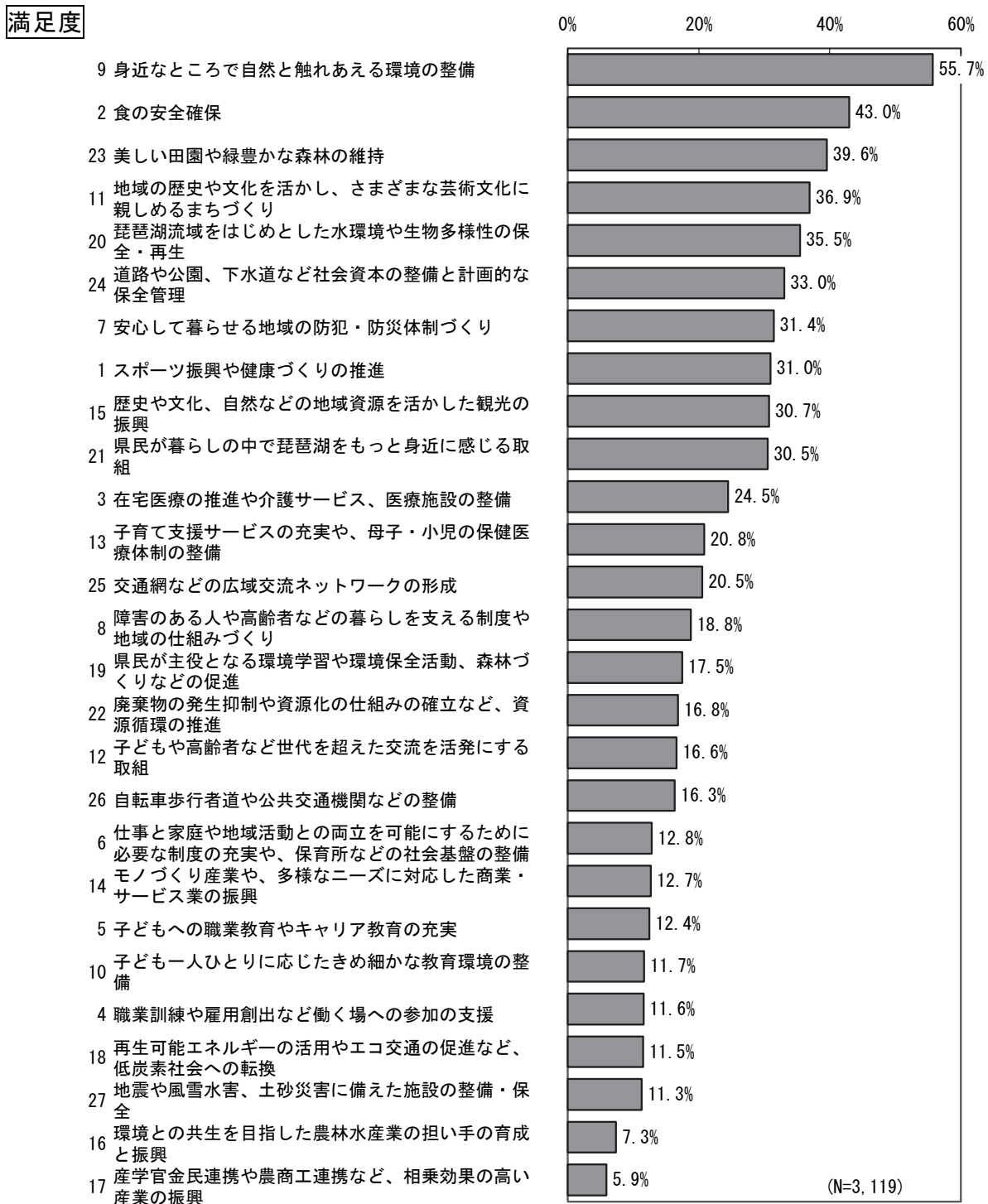
分野	番号	施策
暮らし	健康	1 スポーツ振興や健康づくりの推進
		2 食の安全確保
		3 在宅医療の推進や介護サービス、医療施設の整備
	働く	4 職業訓練や雇用創出など働く場への参加の支援
		5 子どもへの職業教育やキャリア教育の充実
		6 仕事と家庭や地域活動との両立を可能にするために必要な制度の充実や、保育所などの社会基盤の整備
	住む	7 安心して暮らせる地域の防犯・防災体制づくり
		8 障害のある人や高齢者などの暮らしを支える制度や地域の仕組みづくり
		9 身近なところで自然と触れあえる環境の整備
	学ぶ・育てる	10 子ども一人ひとりに応じたきめ細かな教育環境の整備
		11 地域の歴史や文化を活かし、さまざまな芸術文化に親しめるまちづくり
		12 子どもや高齢者など世代を超えた交流を活発にする取組
		13 子育て支援サービスの充実や、母子・小児の保健医療体制の整備
経済・産業	14 モノづくり産業や、多様なニーズに対応した商業・サービス業の振興	
	15 歴史や文化、自然などの地域資源を活かした観光の振興	
	16 環境との共生を目指した農林水産業の担い手の育成と振興	
	17 産学官金民連携や農商工連携など、相乗効果の高い産業の振興	
環境	18 再生可能エネルギーの活用やエコ交通の促進など、低炭素社会への転換	
	19 県民が主役となる環境学習や環境保全活動、森林づくりなどの促進	
	20 琵琶湖流域をはじめとした水環境や生物多様性の保全・再生	
	21 県民が暮らしの中で琵琶湖をもっと身近に感じる取組	
	22 廃棄物の発生抑制や資源化の仕組みの確立など、資源循環の推進	
県土	23 美しい田園や緑豊かな森林の維持	
	24 道路や公園、下水道など社会資本の整備と計画的な保全管理	
	25 交通網などの広域交流ネットワークの形成	
	26 自転車歩行者道や公共交通機関などの整備	
	27 地震や風雪水害、土砂災害に備えた施設の整備・保全	

## ①満足度の高い施策

### ◆満足度が最も高い施策は「身近なところで自然と触れあえる環境の整備」で55.7%

『満足度』の最も高い施策は「身近なところで自然と触れあえる環境の整備」で55.7%となっており、以下、「食の安全確保」が43.0%、「美しい田園や緑豊かな森林の維持」が39.6%、「地域の歴史や文化を活かし、さまざまな芸術文化に親しめるまちづくり」が36.9%と続いている。

満足度の上位10項目の内訳は、「暮らし」の分野から5項目、「経済・産業」の分野から1項目、「環境」の分野から2項目、「県土」の分野から2項目となっている。





## 【地域別】

いずれの地域においても「身近なところで自然と触れあえる環境の整備」が第1位となっており、次いで、大津地域・湖南地域・甲賀地域・東近江地域・湖東地域では「食の安全確保」（大津地域では「美しい田園や緑豊かな森林の維持」も同率）、湖北地域では「地域の歴史や文化を活かし、さまざまな芸術文化に親しめるまちづくり」、湖西地域では「美しい田園や緑豊かな森林の維持」が第2位となっている。

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体 (N=3,119)	9 身近なところで自然と触れあえる環境の整備 55.7%	2 食の安全確保 43.0%	23 美しい田園や緑豊かな森林の維持 39.6%	11 地域の歴史や文化を活かし、さまざまな芸術文化に親しめるまちづくり 36.9%	20 琵琶湖流域をはじめとした水環境や生物多様性の保全・再生 35.5%
大津地域 (N=790)	9 身近なところで自然と触れあえる環境の整備 61.5%	2 食の安全確保 23 美しい田園や緑豊かな森林の維持 39.0%		11 地域の歴史や文化を活かし、さまざまな芸術文化に親しめるまちづくり 38.5%	20 琵琶湖流域をはじめとした水環境や生物多様性の保全・再生 38.0%
湖南地域 (N=680)	9 身近なところで自然と触れあえる環境の整備 57.4%	2 食の安全確保 45.3%	23 美しい田園や緑豊かな森林の維持 40.6%	20 琵琶湖流域をはじめとした水環境や生物多様性の保全・再生 39.7%	24 道路や公園、下水道など社会資本の整備と計画的な保全管理 38.5%
甲賀地域 (N=316)	9 身近なところで自然と触れあえる環境の整備 53.2%	2 食の安全確保 48.1%	23 美しい田園や緑豊かな森林の維持 40.5%	7 安心して暮らせる地域の防犯・防災体制づくり 35.4%	24 道路や公園、下水道など社会資本の整備と計画的な保全管理 34.2%
東近江地域 (N=526)	9 身近なところで自然と触れあえる環境の整備 53.2%	2 食の安全確保 46.0%	23 美しい田園や緑豊かな森林の維持 43.7%	20 琵琶湖流域をはじめとした水環境や生物多様性の保全・再生 38.4%	11 地域の歴史や文化を活かし、さまざまな芸術文化に親しめるまちづくり 35.7%
湖東地域 (N=338)	9 身近なところで自然と触れあえる環境の整備 47.9%	2 食の安全確保 41.4%	11 地域の歴史や文化を活かし、さまざまな芸術文化に親しめるまちづくり 39.6%	15 歴史や文化、自然などの地域資源を活かした観光の振興 35.5%	7 安心して暮らせる地域の防犯・防災体制づくり 23 美しい田園や緑豊かな森林の維持 34.3%
湖北地域 (N=344)	9 身近なところで自然と触れあえる環境の整備 51.7%	11 地域の歴史や文化を活かし、さまざまな芸術文化に親しめるまちづくり 44.2%	2 食の安全確保 43.0%	15 歴史や文化、自然などの地域資源を活かした観光の振興 39.5%	1 スポーツ振興や健康づくりの推進 37.8%
湖西地域 (N=125)	9 身近なところで自然と触れあえる環境の整備 58.4%	23 美しい田園や緑豊かな森林の維持 46.4%	11 地域の歴史や文化を活かし、さまざまな芸術文化に親しめるまちづくり 37.6%	2 食の安全確保 34.4%	20 琵琶湖流域をはじめとした水環境や生物多様性の保全・再生 33.6%

※ 1 マスに 2 項目以上を並記している場合は同率同順位であることを示している。以降の数表においても同じ。

## 【性別】

男女ともに「身近なところで自然と触れあえる環境の整備」が第1位、「食の安全確保」が第2位、「美しい田園や緑豊かな森林の維持」が第3位となっている。第4位と第5位は男女で順位は異なるが、「琵琶湖流域をはじめとした水環境や生物多様性の保全・再生」と「地域の歴史や文化を活かし、さまざまな芸術文化に親しめるまちづくり」が入っている。

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
男性 (N=1,448)	9 身近なところで自然と触れあえる環境の整備	2 食の安全確保	23 美しい田園や緑豊かな森林の維持	20 琵琶湖流域をはじめとした水環境や生物多様性の保全・再生	11 地域の歴史や文化を活かし、さまざまな芸術文化に親しめるまちづくり
	53.3%	40.4%	38.3%	38.3%	35.5%
女性 (N=1,644)	9 身近なところで自然と触れあえる環境の整備	2 食の安全確保	23 美しい田園や緑豊かな森林の維持	11 地域の歴史や文化を活かし、さまざまな芸術文化に親しめるまちづくり	20 琵琶湖流域をはじめとした水環境や生物多様性の保全・再生
	57.9%	45.4%	40.9%	38.3%	33.1%

※男性の第3位と第4位は小数第1位までの表記では同率となるが、小数第2位以下の計算結果も考慮すると順位が異なる。

【性・年代別】

男性の20歳代～60歳代では「身近なところで自然と触れあえる環境整備」が最も多く、70歳以上では「道路や公園、下水道など社会資本の整備と計画的な保全管理」が最も多くなっている。

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
男性	20歳代 (N=125)	9 身近なところで自然と触れあえる環境の整備 65.6%	23 美しい田園や緑豊かな森林の維持 54.4%	2 食の安全確保 46.4%	11 地域の歴史や文化を活かし、さまざまな芸術文化に親しめるまちづくり 44.0%	20 琵琶湖流域をはじめとした水環境や生物多様性の保全・再生 42.4%
	30歳代 (N=230)	9 身近なところで自然と触れあえる環境の整備 60.0%	23 美しい田園や緑豊かな森林の維持 46.5%	20 琵琶湖流域をはじめとした水環境や生物多様性の保全・再生 43.9%	21 県民が暮らしの中で琵琶湖をもっと身近に感じる取組 39.6%	2 食の安全確保 37.0%
	40歳代 (N=288)	9 身近なところで自然と触れあえる環境の整備 52.8%	2 食の安全確保 37.5%	20 琵琶湖流域をはじめとした水環境や生物多様性の保全・再生 35.8%	23 美しい田園や緑豊かな森林の維持 35.4%	11 地域の歴史や文化を活かし、さまざまな芸術文化に親しめるまちづくり 34.4%
	50歳代 (N=304)	9 身近なところで自然と触れあえる環境の整備 52.0%	20 琵琶湖流域をはじめとした水環境や生物多様性の保全・再生 40.8%	2 食の安全確保 36.5%	24 道路や公園、下水道など社会資本の整備と計画的な保全管理 35.9%	23 美しい田園や緑豊かな森林の維持 33.6%
	60歳代 (N=341)	9 身近なところで自然と触れあえる環境の整備 50.7%	2 食の安全確保 45.7%	11 地域の歴史や文化を活かし、さまざまな芸術文化に親しめるまちづくり 39.0%	20 琵琶湖流域をはじめとした水環境や生物多様性の保全・再生 24 道路や公園、下水道など社会資本の整備と計画的な保全管理 35.2%	
	70歳以上 (N=160)	24 道路や公園、下水道など社会資本の整備と計画的な保全管理 43.8%	9 身近なところで自然と触れあえる環境の整備 43.1%	2 食の安全確保 41.9%	1 スポーツ振興や健康づくりの推進 41.3%	23 美しい田園や緑豊かな森林の維持 39.4%

女性では、いずれの年代においても「身近なところで自然と触れあえる環境の整備」が最も多くなっている（70歳以上では「食の安全確保」も同率で最多）。

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
女性	20歳代 (N=181)	9 身近なところで自然と触れあえる環境の整備	2 食の安全確保	15 歴史や文化、自然などの地域資源を活かした観光の振興	20 琵琶湖流域をはじめとした水環境や生物多様性の保全・再生	23 美しい田園や緑豊かな森林の維持
		58.0%	42.5%	40.3%	39.8%	37.0%
	30歳代 (N=318)	9 身近なところで自然と触れあえる環境の整備	23 美しい田園や緑豊かな森林の維持	2 食の安全確保	20 琵琶湖流域をはじめとした水環境や生物多様性の保全・再生	1 スポーツ振興や健康づくりの推進 11 地域の歴史や文化を活かし、さまざまな芸術文化に親しめるまちづくり
		59.4%	49.4%	37.4%	36.5%	35.2%
	40歳代 (N=361)	9 身近なところで自然と触れあえる環境の整備	23 美しい田園や緑豊かな森林の維持	2 食の安全確保 11 地域の歴史や文化を活かし、さまざまな芸術文化に親しめるまちづくり	21 県民が暮らしの中で琵琶湖をもっと身近に感じる取組	
		62.3%	45.7%	44.9%	39.6%	
	50歳代 (N=347)	9 身近なところで自然と触れあえる環境の整備	2 食の安全確保	23 美しい田園や緑豊かな森林の維持	11 地域の歴史や文化を活かし、さまざまな芸術文化に親しめるまちづくり	7 安心して暮らせる地域の防犯・防災体制づくり
		51.6%	46.1%	32.0%	30.8%	30.5%
	60歳代 (N=334)	9 身近なところで自然と触れあえる環境の整備	2 食の安全確保	11 地域の歴史や文化を活かし、さまざまな芸術文化に親しめるまちづくり 23 美しい田園や緑豊かな森林の維持	7 安心して暮らせる地域の防犯・防災体制づくり	
		60.2%	51.8%	41.6%	38.9%	
	70歳以上 (N=101)	2 食の安全確保 9 身近なところで自然と触れあえる環境の整備	11 地域の歴史や文化を活かし、さまざまな芸術文化に親しめるまちづくり		24 道路や公園、下水道など社会資本の整備と計画的な保全管理	7 安心して暮らせる地域の防犯・防災体制づくり 21 県民が暮らしの中で琵琶湖をもっと身近に感じる取組
			52.5%	42.6%	39.6%	35.6%

### 【定住意向別】

定住意向の有無に関係なく「身近なところで自然と触れあえる環境の整備」が最も多いが、「住みつづけたい」と回答した人（56.4%）が「住みつづけたいとは思わない」と回答した人（54.5%）に比べて1.9ポイント多くなっている。

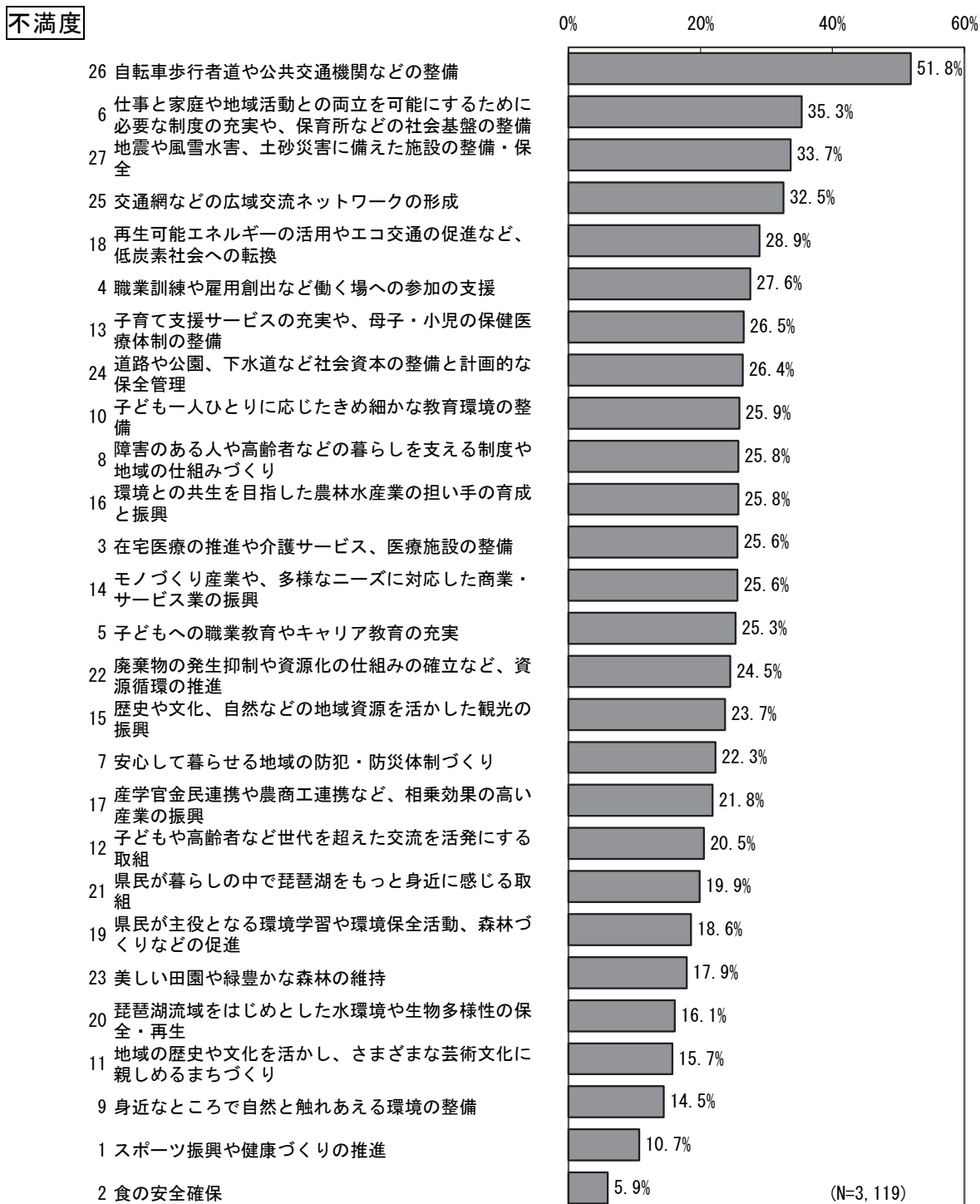
	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
住みつづけたい (N=2,476)	9 身近なところで自然と触れあえる環境の整備 56.4%	2 食の安全確保 46.0%	23 美しい田園や緑豊かな森林の維持 41.1%	11 地域の歴史や文化を活かし、さまざまな芸術文化に親しめるまちづくり 38.6%	20 琵琶湖流域をはじめとした水環境や生物多様性の保全・再生 37.3%
住みつづけたいとは思わない (N=110)	9 身近なところで自然と触れあえる環境の整備 54.5%	23 美しい田園や緑豊かな森林の維持 40.9%	2 食の安全確保 32.7%	20 琵琶湖流域をはじめとした水環境や生物多様性の保全・再生 30.0%	21 県民が暮らしの中で琵琶湖をもっと身近に感じる取組 26.4%
どちらともいえない (N=524)	9 身近なところで自然と触れあえる環境の整備 52.7%	23 美しい田園や緑豊かな森林の維持 32.4%	11 地域の歴史や文化を活かし、さまざまな芸術文化に親しめるまちづくり 31.1%	2 食の安全確保 30.9%	20 琵琶湖流域をはじめとした水環境や生物多様性の保全・再生 28.4%

## ②不満度の高い施策

### ◆不満度が最も高い施策は「自転車歩行者道や公共交通機関などの整備」で51.8%

『不満度』の最も高い施策は「自転車歩行者道や公共交通機関などの整備」で51.8%となっており、以下、「仕事と家庭や地域活動との両立を可能にするために必要な制度の充実や、保育所などの社会基盤の整備」が35.3%、「地震や風雪水害、土砂災害に備えた施設の整備・保全」が33.7%、「交通網などの広域交流ネットワークの形成」が32.5%と続いている。

不満度の上位10項目の内訳は、「暮らし」の分野から5項目、「環境」の分野から1項目、「県土」の分野から4項目となっている。



【地域別】

いずれの地域においても「自転車歩行者道や公共交通機関などの整備」が第1位となっており、大津地域・湖東地域・湖西地域・甲賀地域では5割を超えている。

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体 (N=3,119)	26 自転車歩行者道や公共交通機関などの整備	6 仕事と家庭や地域活動との両立を可能にするために必要な制度の充実や、保育所などの社会基盤の整備	27 地震や風雪水害、土砂災害に備えた施設の整備・保全	25 交通網などの広域交流ネットワークの形成	18 再生可能エネルギーの活用やエコ交通の促進など、低炭素社会への転換
	51.8%	35.3%	33.7%	32.5%	28.9%
大津地域 (N=790)	26 自転車歩行者道や公共交通機関などの整備	25 交通網などの広域交流ネットワークの形成	6 仕事と家庭や地域活動との両立を可能にするために必要な制度の充実や、保育所などの社会基盤の整備	27 地震や風雪水害、土砂災害に備えた施設の整備・保全	24 道路や公園、下水道など社会資本の整備と計画的な保全管理
	57.2%	37.2%	35.9%	31.9%	28.6%
湖南地域 (N=680)	26 自転車歩行者道や公共交通機関などの整備	6 仕事と家庭や地域活動との両立を可能にするために必要な制度の充実や、保育所などの社会基盤の整備	25 交通網などの広域交流ネットワークの形成	27 地震や風雪水害、土砂災害に備えた施設の整備・保全	15 歴史や文化、自然などの地域資源を活かした観光の振興
	49.7%	32.1%	30.9%	27.4%	26.8%
甲賀地域 (N=316)	26 自転車歩行者道や公共交通機関などの整備	6 仕事と家庭や地域活動との両立を可能にするために必要な制度の充実や、保育所などの社会基盤の整備	27 地震や風雪水害、土砂災害に備えた施設の整備・保全	25 交通網などの広域交流ネットワークの形成	5 子どもへの職業教育やキャリア教育の充実 13 子育て支援サービスの充実や、母子・小児の保健医療体制の整備
	51.3%	33.5%	31.6%	28.5%	25.9%
東近江地域 (N=526)	26 自転車歩行者道や公共交通機関などの整備	6 仕事と家庭や地域活動との両立を可能にするために必要な制度の充実や、保育所などの社会基盤の整備	27 地震や風雪水害、土砂災害に備えた施設の整備・保全	3 在宅医療の推進や介護サービス、医療施設の整備	4 職業訓練や雇用創出など働く場への参加の支援 18 再生可能エネルギーの活用やエコ交通の促進など、低炭素社会への転換
	46.4%	38.0%	31.9%	31.6%	31.2%
湖東地域 (N=338)	26 自転車歩行者道や公共交通機関などの整備	27 地震や風雪水害、土砂災害に備えた施設の整備・保全	6 仕事と家庭や地域活動との両立を可能にするために必要な制度の充実や、保育所などの社会基盤の整備	25 交通網などの広域交流ネットワークの形成	18 再生可能エネルギーの活用やエコ交通の促進など、低炭素社会への転換
	56.2%	41.4%	37.3%	34.9%	34.3%
湖北地域 (N=344)	26 自転車歩行者道や公共交通機関などの整備	27 地震や風雪水害、土砂災害に備えた施設の整備・保全	6 仕事と家庭や地域活動との両立を可能にするために必要な制度の充実や、保育所などの社会基盤の整備 18 再生可能エネルギーの活用やエコ交通の促進など、低炭素社会への転換	25 交通網などの広域交流ネットワークの形成	4 職業訓練や雇用創出など働く場への参加の支援
	47.1%	44.2%	40.1%	40.1%	37.8%
湖西地域 (N=125)	26 自転車歩行者道や公共交通機関などの整備	25 交通網などの広域交流ネットワークの形成	27 地震や風雪水害、土砂災害に備えた施設の整備・保全	5 子どもへの職業教育やキャリア教育の充実	14 モノづくり産業や、多様なニーズに対応した商業・サービス業の振興
	55.2%	42.4%	41.6%	32.0%	31.2%

**【性別】**

男女ともに「自転車歩行者道や公共交通機関などの整備」が第1位となっており、次いで、男性では「交通網などの広域交流ネットワークの形成」、女性では「仕事と家庭や地域活動との両立を可能にするために必要な制度の充実や、保育所などの社会基盤の整備」が第2位となっている。

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
男性 (N=1,448)	26 自転車歩行者道や公共交通機関などの整備 52.4%	25 交通網などの広域交流ネットワークの形成 36.0%	18 再生可能エネルギーの活用やエコ交通の促進など、低炭素社会への転換 35.6%	6 仕事と家庭や地域活動との両立を可能にするために必要な制度の充実や、保育所などの社会基盤の整備 35.1%	27 地震や風雪水害、土砂災害に備えた施設の整備・保全 34.7%
女性 (N=1,644)	26 自転車歩行者道や公共交通機関などの整備 51.2%	6 仕事と家庭や地域活動との両立を可能にするために必要な制度の充実や、保育所などの社会基盤の整備 35.4%	27 地震や風雪水害、土砂災害に備えた施設の整備・保全 32.7%	25 交通網などの広域交流ネットワークの形成 29.2%	4 職業訓練や雇用創出など働く場への参加の支援 26.6%



【性・年代別】

いずれの性・年代においても、「自転車歩行者道や公共交通機関などの整備」が最も多く、男性の30歳以上、女性の30歳代～50歳代では5割以上となっている。

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
男性	20歳代 (N=125)	26 自転車歩行者道や公共交通機関などの整備 42.4%	4 職業訓練や雇用創出など働く場への参加の支援 33.6%	25 交通網などの広域交流ネットワークの形成 32.0%	10 子ども一人ひとりに応じたきめ細かな教育環境の整備 30.4%	27 地震や風雪水害、土砂災害に備えた施設の整備・保全 27.2%
	30歳代 (N=230)	26 自転車歩行者道や公共交通機関などの整備 52.6%	6 仕事と家庭や地域活動との両立を可能にするために必要な制度の充実や、保育所などの社会基盤の整備 47.8%	25 交通網などの広域交流ネットワークの形成 42.2%	13 子育て支援サービスの充実や、母子・小児の保健医療体制の整備 37.4%	18 再生可能エネルギーの活用やエコ交通の促進など、低炭素社会への転換 33.0%
	40歳代 (N=288)	26 自転車歩行者道や公共交通機関などの整備 50.0%	6 仕事と家庭や地域活動との両立を可能にするために必要な制度の充実や、保育所などの社会基盤の整備 38.5%	27 地震や風雪水害、土砂災害に備えた施設の整備・保全 38.2%	25 交通網などの広域交流ネットワークの形成 37.5%	5 子どもへの職業教育やキャリア教育の充実 34.0%
	50歳代 (N=304)	26 自転車歩行者道や公共交通機関などの整備 59.2%	18 再生可能エネルギーの活用やエコ交通の促進など、低炭素社会への転換 40.5%	4 職業訓練や雇用創出など働く場への参加の支援 16 環境との共生を目指した農林水産業の担い手の育成と振興 39.8%	25 交通網などの広域交流ネットワークの形成 39.1%	
	60歳代 (N=341)	26 自転車歩行者道や公共交通機関などの整備 51.6%	18 再生可能エネルギーの活用やエコ交通の促進など、低炭素社会への転換 27 地震や風雪水害、土砂災害に備えた施設の整備・保全 36.4%	16 環境との共生を目指した農林水産業の担い手の育成と振興 35.2%	25 交通網などの広域交流ネットワークの形成 33.7%	
	70歳以上 (N=160)	26 自転車歩行者道や公共交通機関などの整備 53.1%	18 再生可能エネルギーの活用やエコ交通の促進など、低炭素社会への転換 44.4%	27 地震や風雪水害、土砂災害に備えた施設の整備・保全 35.0%	22 廃棄物の発生抑制や資源化の仕組みの確立など、資源循環の推進 33.8%	16 環境との共生を目指した農林水産業の担い手の育成と振興 31.9%

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
女性	20歳代 (N=181)	26 自転車歩行者道 や公共交通機関など の整備 46.4%	6 仕事と家庭や地域 活動との両立を可能 にするために必要な 制度の充実や、保育所 などの社会基盤の整 備 34.3%	4 職業訓練や雇用創出など働く場への参加 の支援 13 子育て支援サービスの充実や、母子・小 児の保健医療体制の整備 29.8%	25 交通網などの広 域交流ネットワー クの形成 28.7%	
	30歳代 (N=318)	26 自転車歩行者道 や公共交通機関など の整備 56.0%	6 仕事と家庭や地域 活動との両立を可能 にするために必要な 制度の充実や、保育所 などの社会基盤の整 備 51.3%	13 子育て支援サー ビスの充実や、母子・ 小児の保健医療体制 の整備 37.7%	27 地震や風雪水害、 土砂災害に備えた施 設の整備・保全 35.5%	25 交通網などの広 域交流ネットワー クの形成 34.6%
	40歳代 (N=361)	26 自転車歩行者道 や公共交通機関など の整備 52.4%	6 仕事と家庭や地域 活動との両立を可能 にするために必要な 制度の充実や、保育所 などの社会基盤の整 備 34.9%	10 子ども一人ひと りに応じたきめ細か な教育環境の整備 32.7%	3 在宅医療の推進や 介護サービス、医療施 設の整備 31.3%	25 交通網などの広 域交流ネットワー クの形成 29.4%
	50歳代 (N=347)	26 自転車歩行者道 や公共交通機関など の整備 52.4%	6 仕事と家庭や地域 活動との両立を可能 にするために必要な 制度の充実や、保育所 などの社会基盤の整 備 35.7%	25 交通網などの広 域交流ネットワー クの形成 33.7%	16 環境との共生を 目指した農林水産業 の担い手の育成と振 興 27 地震や風雪水害、 土砂災害に備えた施 設の整備・保全 32.6%	
	60歳代 (N=334)	26 自転車歩行者道 や公共交通機関など の整備 48.5%	27 地震や風雪水害、 土砂災害に備えた施 設の整備・保全 36.8%	6 仕事と家庭や地域 活動との両立を可能 にするために必要な 制度の充実や、保育所 などの社会基盤の整 備 29.0%	4 職業訓練や雇用創 出など働く場への参 加の支援 24.9%	3 在宅医療の推進や 介護サービス、医療施 設の整備 22.8%
	70歳以上 (N=101)	26 自転車歩行者道 や公共交通機関など の整備 45.5%	27 地震や風雪水害、 土砂災害に備えた施 設の整備・保全 34.7%	12 子どもや高齢者 など世代を超えた交 流を活発にする取組 26.7%	25 交通網などの広 域交流ネットワー クの形成 22.8%	22 廃棄物の発生抑 制や資源化の仕組み の確立など、資源循環 の推進 21.8%

### 【定住意向別】

定住意向の有無に関係なく「自転車歩行者道や公共交通機関などの整備」が最も多く、「住みつづけたいとは思わない」と回答した人（65.5%）が「住みつづけたい」と回答した人（48.3%）に比べて17.2ポイント多くなっている。次いで、「住みつづけたい」と回答した人では「仕事と家庭や地域活動との両立を可能にするために必要な制度の充実や、保育所などの社会基盤の整備」、「住みつづけたいとは思わない」と「どちらともいえない」と回答した人では「交通網などの広域交流ネットワークの形成」となっている。

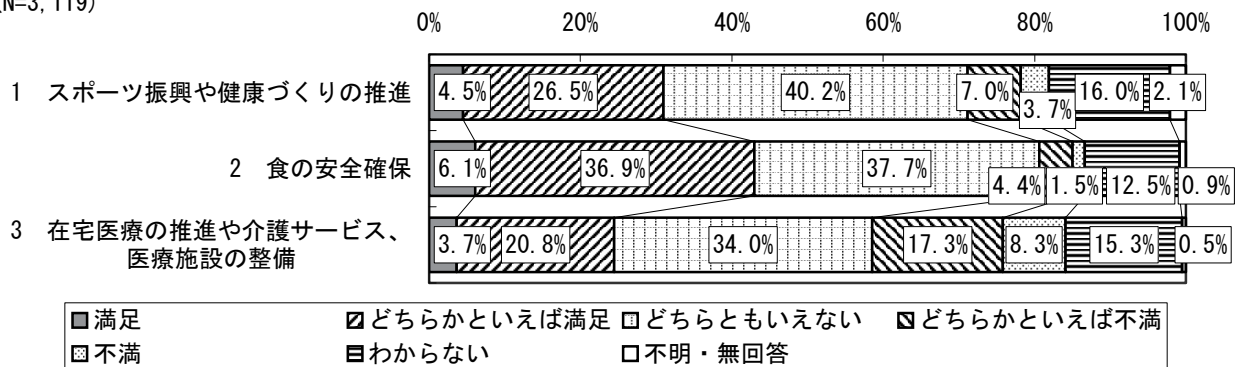
	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
住みつづけたい (N=2,476)	26 自転車歩行者道や公共交通機関などの整備 48.3%	6 仕事と家庭や地域活動との両立を可能にするために必要な制度の充実や、保育所などの社会基盤の整備 33.6%	27 地震や風雪水害、土砂災害に備えた施設の整備・保全 32.2%	18 再生可能エネルギーの活用やエコ交通の促進など、低炭素社会への転換 28.6%	25 交通網などの広域交流ネットワークの形成 28.4%
住みつづけたいとは思わない (N=110)	26 自転車歩行者道や公共交通機関などの整備 65.5%	25 交通網などの広域交流ネットワークの形成 53.6%	27 地震や風雪水害、土砂災害に備えた施設の整備・保全 45.5%	6 仕事と家庭や地域活動との両立を可能にするために必要な制度の充実や、保育所などの社会基盤の整備 42.7%	24 道路や公園、下水道など社会資本の整備と計画的な保全管理 41.8%
どちらともいえない (N=524)	26 自転車歩行者道や公共交通機関などの整備 66.2%	25 交通網などの広域交流ネットワークの形成 47.9%	6 仕事と家庭や地域活動との両立を可能にするために必要な制度の充実や、保育所などの社会基盤の整備 42.0%	27 地震や風雪水害、土砂災害に備えた施設の整備・保全 38.4%	24 道路や公園、下水道など社会資本の整備と計画的な保全管理 37.2%

③県政に対する『満足度』、『不満度』（全体の結果）

**暮らし**

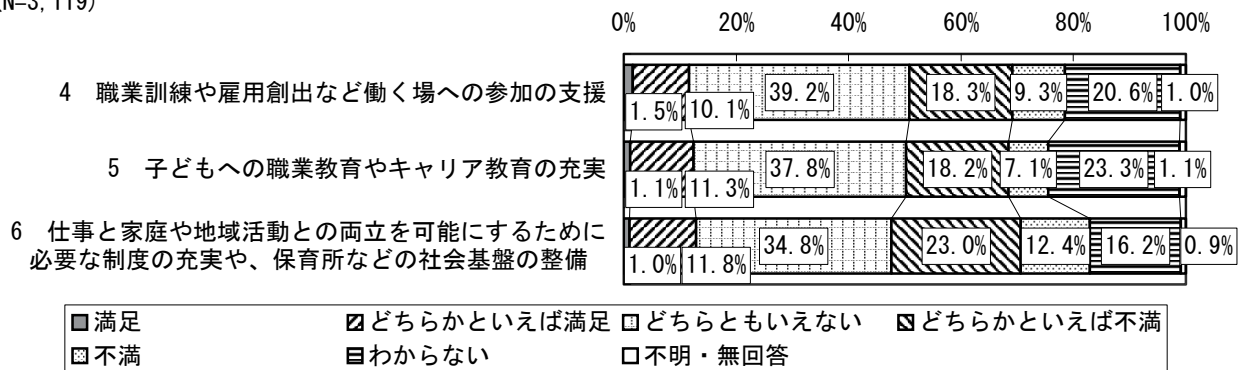
（健康）

(N=3,119)



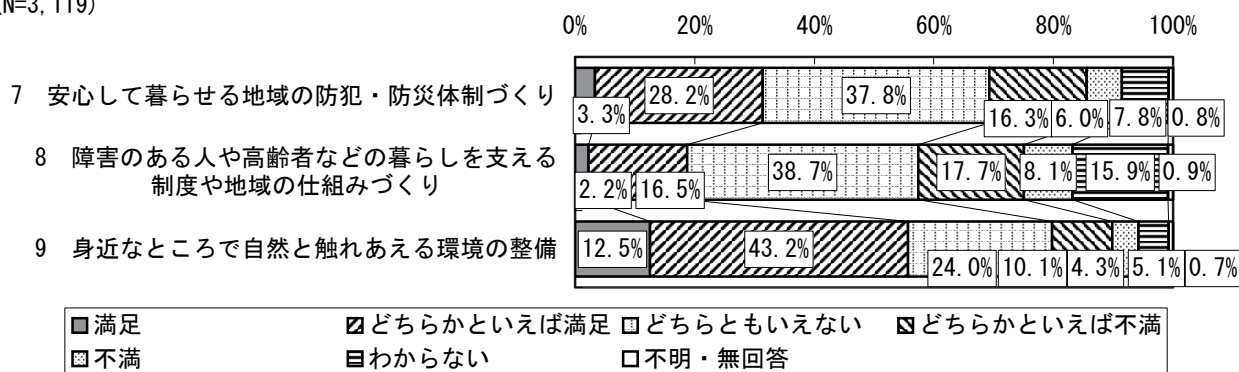
（働く）

(N=3,119)



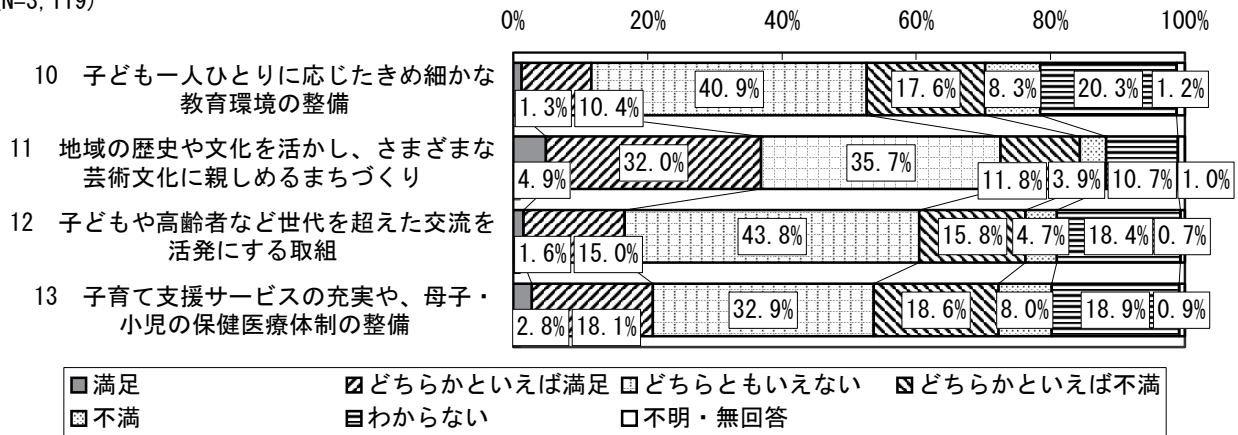
（住む）

(N=3,119)



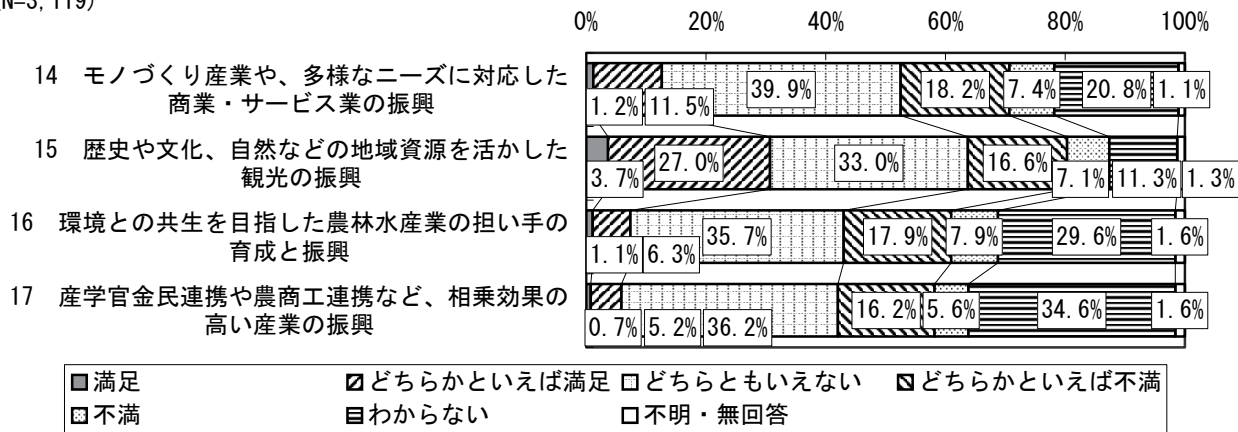
(学ぶ・育てる)

(N=3,119)



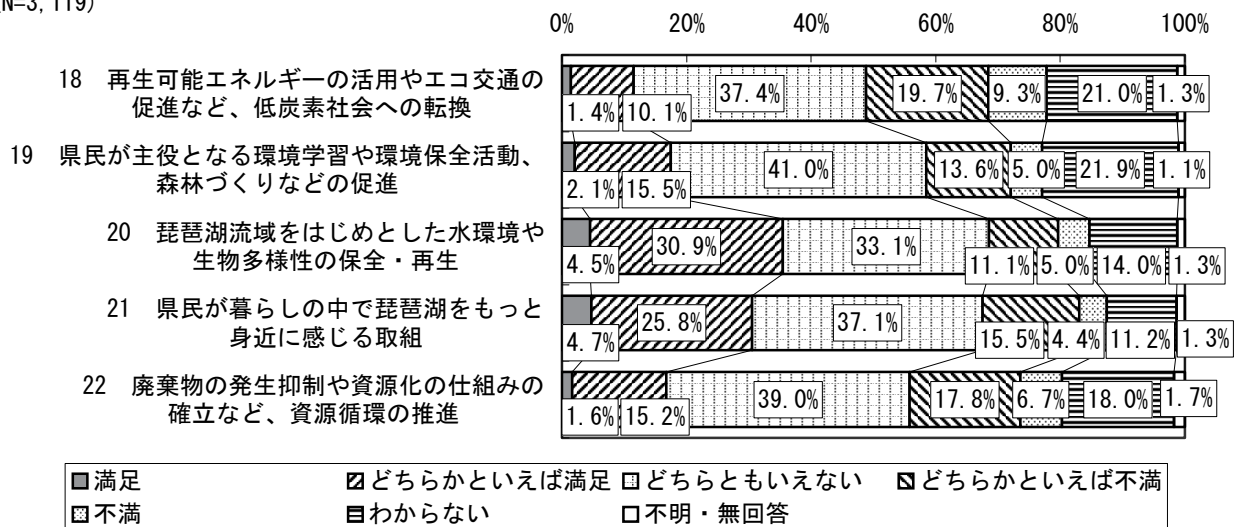
経済・産業

(N=3,119)



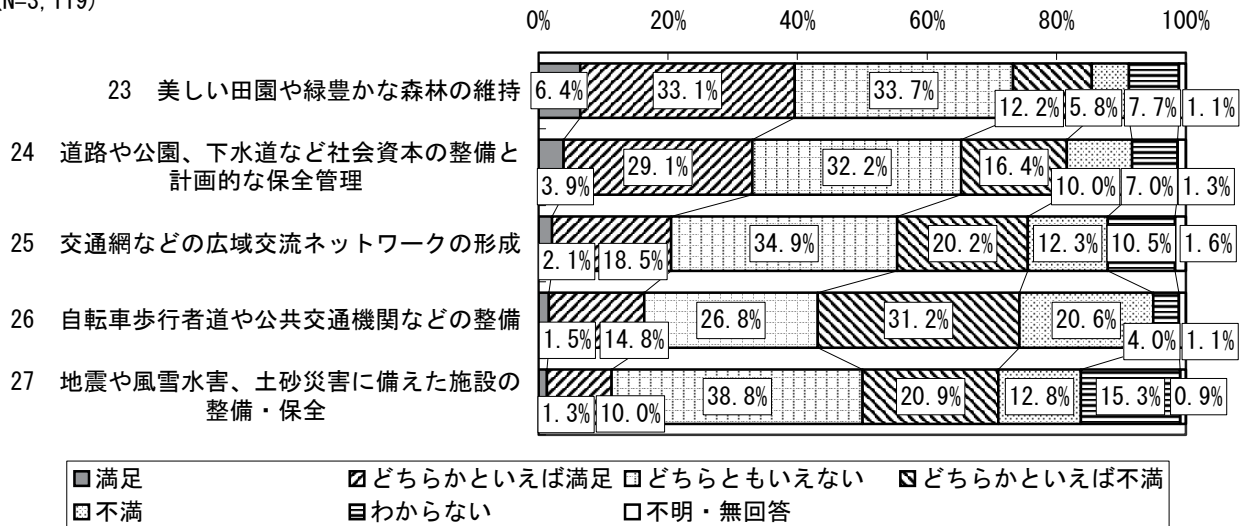
環境

(N=3,119)



**県 土**

(N=3, 119)



(4) 力を入れてほしい県の施策

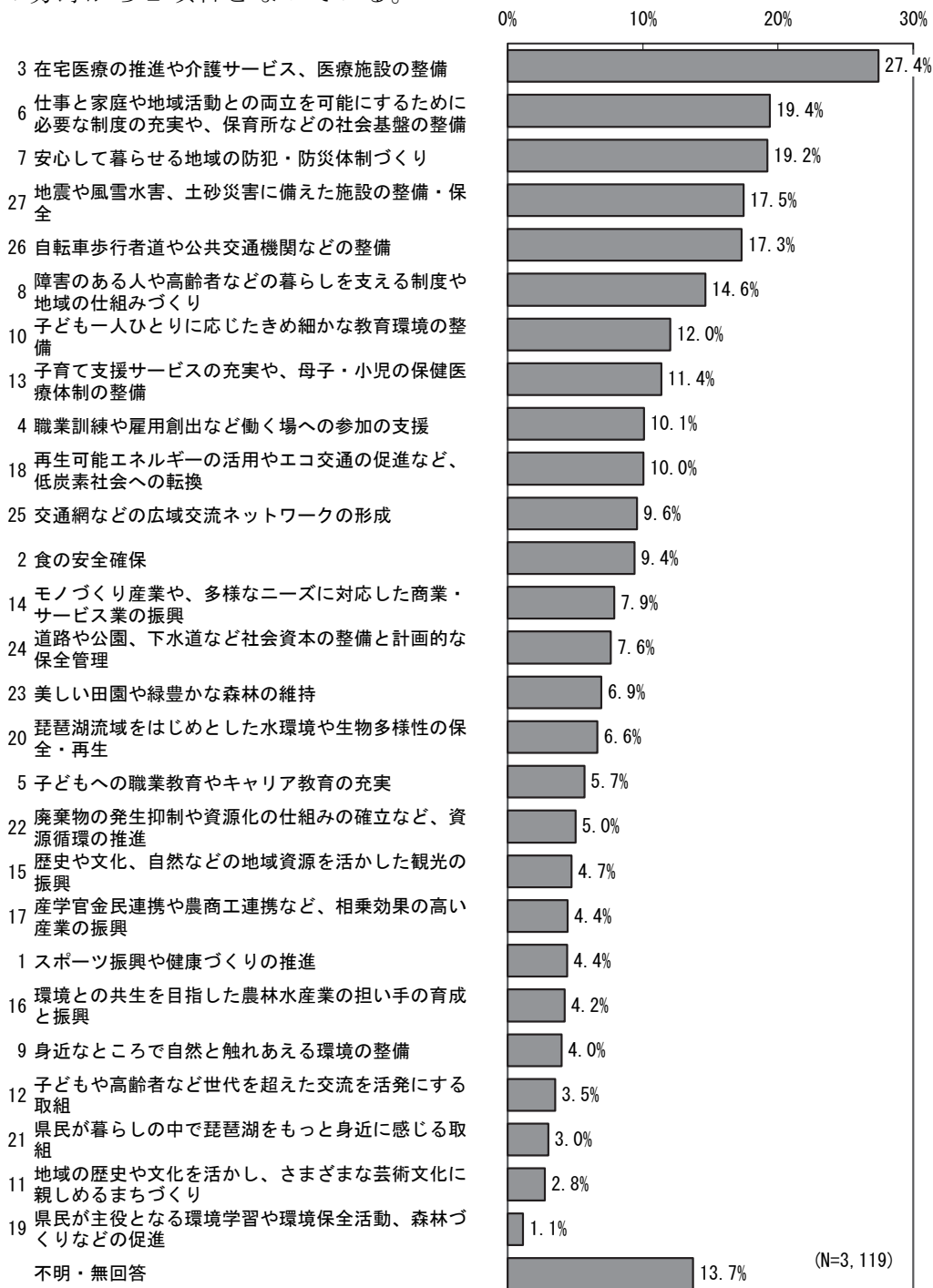
問9 あなたが、いま県の施策で力を入れてほしいと思うことはどんなことですか。前問の内容を参考に、1～27の中から選んでください。(〇は3つまで)

①全体の順位

◆最も力を入れてほしい施策は「在宅医療の推進や介護サービス、医療施設の整備」で27.4%

全体では「在宅医療の推進や介護サービス、医療施設の整備」が27.4%で最も多く、以下、「仕事と家庭や地域活動との両立を可能にするために必要な制度の充実や、保育所などの社会基盤の整備」が19.4%、「安心して暮らせる地域の防犯・防災体制づくり」が19.2%と続いている。

要望の多い上位10項目の内訳は、「暮らし」の分野から7項目、「環境」の分野から1項目、「県土」の分野から2項目となっている。

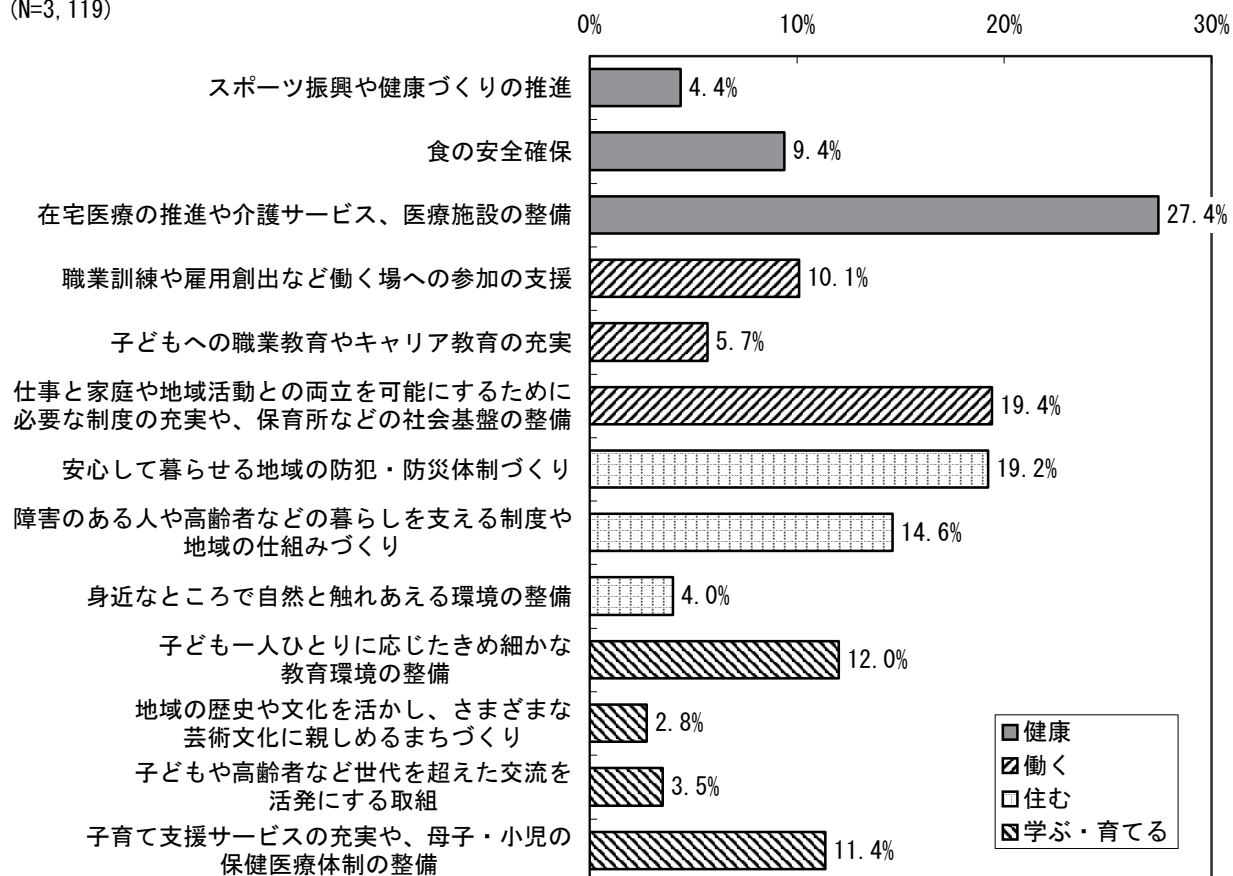


## ②分野別の要望

### ○「暮らし」分野における要望

「暮らし」分野が全体の上位3位を占め、「在宅医療の推進や介護サービス、医療施設の整備」(27.4%)、「仕事と家庭や地域活動との両立を可能にするために必要な制度の充実や、保育所などの社会基盤の整備」(19.4%)、「安心して暮らせる地域の防犯・防災体制づくり」(19.2%)となっている。

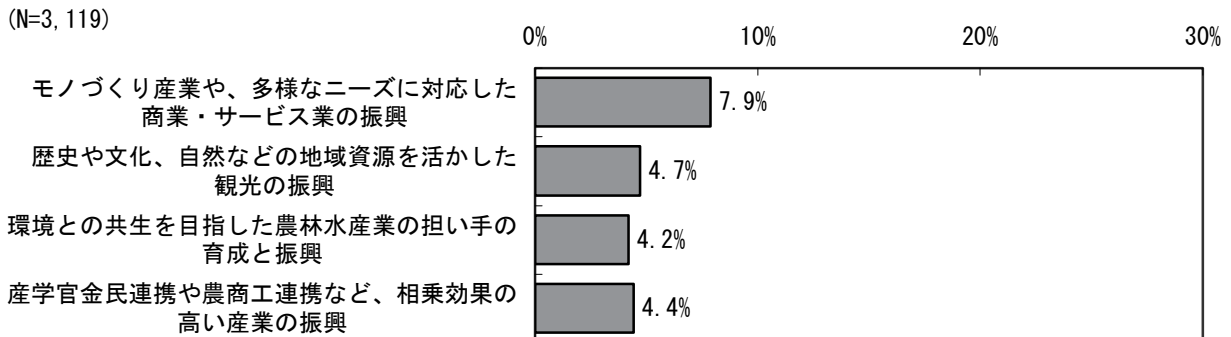
(N=3,119)





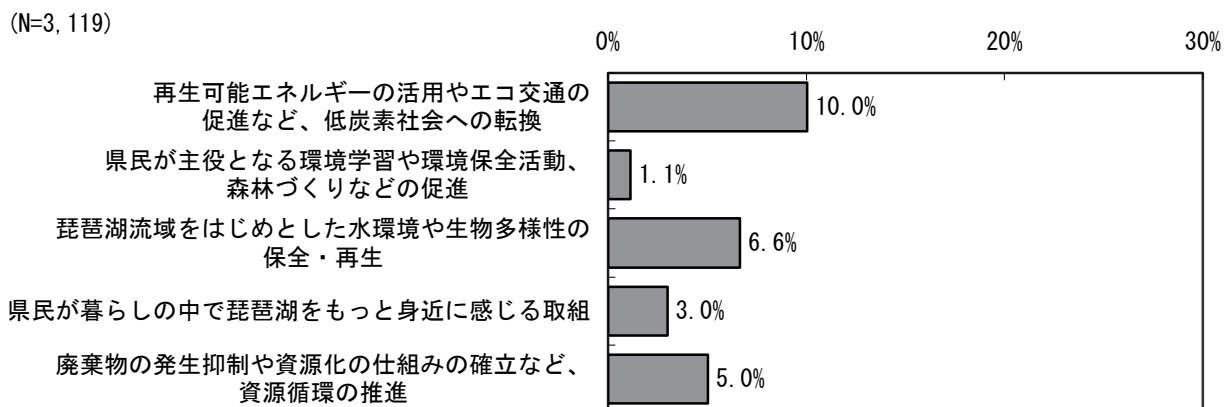
### ○「経済・産業」分野における要望

「経済・産業」分野では、「モノづくり産業や、多様なニーズに対応した商業・サービス業の振興」が7.9%で最も多く、以下、「歴史や文化、自然などの地域資源を活かした観光の振興」が4.7%、「産学官金民連携や農商工連携など、相乗効果の高い産業の振興」が4.4%、「環境との共生を目指した農林水産業の担い手の育成と振興」が4.2%と続いている。



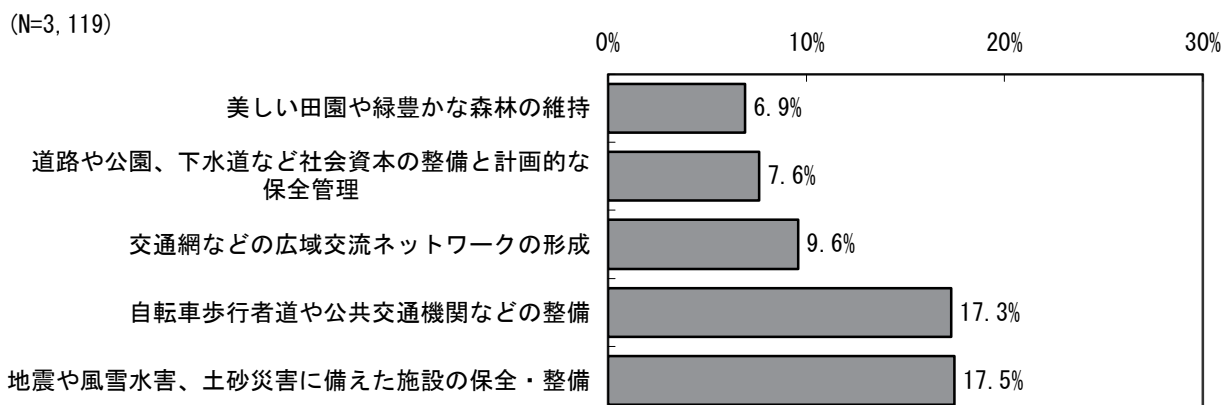
### ○「環境」分野における要望

「環境」分野では、「再生可能エネルギーの活用やエコ交通の促進など、低炭素社会への転換」が10.0%で最も多く、以下、「琵琶湖流域をはじめとした水環境や生物多様性の保全・再生」が6.6%、「廃棄物の発生抑制や資源化の仕組みの確立など、資源循環の推進」が5.0%と続いている。



### ○「県土」分野における要望

「県土」分野では、「地震や風雪水害、土砂災害に備えた施設の保全・整備」が17.5%で最も多く、以下、「自転車歩行者道や公共交通機関などの整備」が17.3%、「交通網などの広域交流ネットワークの形成」が9.6%と続いている。



## 【地域別】

大津地域・湖南地域・甲賀地域・東近江地域・湖東地域・湖北地域では「在宅医療の推進や介護サービス、医療施設の整備」、湖西地域では「地震や風雪水害、土砂災害に備えた施設の保全・整備」が、それぞれ第1位となっている。

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体 (N=3,119)	3 在宅医療の推進や介護サービス、医療施設の整備	6 仕事と家庭や地域活動との両立を可能にするために必要な制度の充実や、保育所などの社会基盤の整備	7 安心して暮らせる地域の防犯・防災体制づくり	27 地震や風雪水害、土砂災害に備えた施設の保全・整備	26 自転車歩行者道や公共交通機関などの整備
	27.4%	19.4%	19.2%	17.5%	17.3%
大津地域 (N=790)	3 在宅医療の推進や介護サービス、医療施設の整備	7 安心して暮らせる地域の防犯・防災体制づくり	6 仕事と家庭や地域活動との両立を可能にするために必要な制度の充実や、保育所などの社会基盤の整備	26 自転車歩行者道や公共交通機関などの整備	27 地震や風雪水害、土砂災害に備えた施設の保全・整備
	26.1%	20.5%	20.3%	20.0%	15.7%
湖南地域 (N=680)	3 在宅医療の推進や介護サービス、医療施設の整備	7 安心して暮らせる地域の防犯・防災体制づくり	6 仕事と家庭や地域活動との両立を可能にするために必要な制度の充実や、保育所などの社会基盤の整備	26 自転車歩行者道や公共交通機関などの整備	27 地震や風雪水害、土砂災害に備えた施設の保全・整備
	25.0%	24.1%	18.5%	16.2%	15.0%
甲賀地域 (N=316)	3 在宅医療の推進や介護サービス、医療施設の整備	6 仕事と家庭や地域活動との両立を可能にするために必要な制度の充実や、保育所などの社会基盤の整備	26 自転車歩行者道や公共交通機関などの整備	7 安心して暮らせる地域の防犯・防災体制づくり	8 障害のある人や高齢者などの暮らしを支える制度や地域の仕組みづくり
	27.8%	19.6%	19.0%	17.1%	16.5%
東近江地域 (N=526)	3 在宅医療の推進や介護サービス、医療施設の整備	6 仕事と家庭や地域活動との両立を可能にするために必要な制度の充実や、保育所などの社会基盤の整備	8 障害のある人や高齢者などの暮らしを支える制度や地域の仕組みづくり	7 安心して暮らせる地域の防犯・防災体制づくり	26 自転車歩行者道や公共交通機関などの整備
	31.6%	20.2%	16.7%	16.3%	16.0%
湖東地域 (N=338)	3 在宅医療の推進や介護サービス、医療施設の整備	6 仕事と家庭や地域活動との両立を可能にするために必要な制度の充実や、保育所などの社会基盤の整備 27 地震や風雪水害、土砂災害に備えた施設の保全・整備	7 安心して暮らせる地域の防犯・防災体制づくり	26 自転車歩行者道や公共交通機関などの整備	26 自転車歩行者道や公共交通機関などの整備
	28.4%	21.3%	17.8%	17.2%	17.2%
湖北地域 (N=344)	3 在宅医療の推進や介護サービス、医療施設の整備	27 地震や風雪水害、土砂災害に備えた施設の保全・整備	6 仕事と家庭や地域活動との両立を可能にするために必要な制度の充実や、保育所などの社会基盤の整備	10 子ども一人ひとりに応じたきめ細かな教育環境の整備	4 職業訓練や雇用創出など働く場への参加の支援
	29.7%	27.3%	18.0%	16.3%	15.7%
湖西地域 (N=125)	27 地震や風雪水害、土砂災害に備えた施設の保全・整備	3 在宅医療の推進や介護サービス、医療施設の整備	25 交通網などの広域交流ネットワークの形成	7 安心して暮らせる地域の防犯・防災体制づくり	26 自転車歩行者道や公共交通機関などの整備
	31.2%	22.4%	21.6%	16.8%	16.0%

**【性別】**

男女ともに「在宅医療の推進や介護サービス、医療施設の整備」が第1位となっている。次いで、男性では「安心して暮らせる地域の防犯・防災体制づくり」、女性では「仕事と家庭や地域活動との両立を可能にするために必要な制度の充実や、保育所などの社会基盤の整備」が第2位となっている。

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
男性 (N=1,448)	3 在宅医療の推進や介護サービス、医療施設の整備	7 安心して暮らせる地域の防犯・防災体制づくり	6 仕事と家庭や地域活動との両立を可能にするために必要な制度の充実や、保育所などの社会基盤の整備	26 自転車歩行者道や公共交通機関などの整備	27 地震や風雪水害、土砂災害に備えた施設の保全・整備
	24.2%	18.4%	16.0%	14.7%	14.2%
女性 (N=1,644)	3 在宅医療の推進や介護サービス、医療施設の整備	6 仕事と家庭や地域活動との両立を可能にするために必要な制度の充実や、保育所などの社会基盤の整備	27 地震や風雪水害、土砂災害に備えた施設の保全・整備	7 安心して暮らせる地域の防犯・防災体制づくり	26 自転車歩行者道や公共交通機関などの整備
	30.2%	22.4%	20.2%	19.7%	19.6%

【性・年代別】

男性の20歳代では「職業訓練や雇用創出など働く場への参加の支援」が最も多く、女性の20歳代と30歳代では「仕事と家庭や地域活動との両立を可能にするために必要な制度の充実や、保育所などの社会基盤の整備」が最も多くなっている。男女ともに40歳以上では「在宅医療の推進や介護サービス、医療施設の整備」が最も多く、40歳以上の女性では年代が高いほど多くなっている。

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
男性	20歳代 (N=125)	4 職業訓練や雇用創出など働く場への参加の支援	26 自転車歩行者道や公共交通機関などの整備	7 安心して暮らせる地域の防犯・防災体制づくり 14 モノづくり産業や、多様なニーズに対応した商業・サービス業の振興		1 スポーツ振興や健康づくりの推進 6 仕事と家庭や地域活動との両立を可能にするために必要な制度の充実や、保育所などの社会基盤の整備
		26.4%	16.0%		15.2%	14.4%
	30歳代 (N=230)	7 安心して暮らせる地域の防犯・防災体制づくり	6 仕事と家庭や地域活動との両立を可能にするために必要な制度の充実や、保育所などの社会基盤の整備	13 子育て支援サービスの充実や、母子・小児の保健医療体制の整備	25 交通網などの広域交流ネットワークの形成 26 自転車歩行者道や公共交通機関などの整備	
		29.6%	28.3%	22.6%		15.7%
	40歳代 (N=288)	3 在宅医療の推進や介護サービス、医療施設の整備	26 自転車歩行者道や公共交通機関などの整備	7 安心して暮らせる地域の防犯・防災体制づくり	10 子ども一人ひとりに応じたきめ細かな教育環境の整備	27 地震や風雪水害、土砂災害に備えた施設の整備・保全
		22.6%	21.9%	19.1%	17.4%	16.7%
50歳代 (N=304)	3 在宅医療の推進や介護サービス、医療施設の整備	27 地震や風雪水害、土砂災害に備えた施設の整備・保全	14 モノづくり産業や、多様なニーズに対応した商業・サービス業の振興	18 再生可能エネルギーの活用やエコ交通の促進など、低炭素社会への転換	4 職業訓練や雇用創出など働く場への参加の支援	
	30.6%	19.4%	16.4%	15.5%	15.1%	
60歳代 (N=341)	3 在宅医療の推進や介護サービス、医療施設の整備	7 安心して暮らせる地域の防犯・防災体制づくり	8 障害のある人や高齢者などの暮らしを支える制度や地域の仕組みづくり	6 仕事と家庭や地域活動との両立を可能にするために必要な制度の充実や、保育所などの社会基盤の整備	26 自転車歩行者道や公共交通機関などの整備	
	27.9%	20.5%	19.4%	15.0%	14.7%	
70歳以上 (N=160)	3 在宅医療の推進や介護サービス、医療施設の整備	6 仕事と家庭や地域活動との両立を可能にするために必要な制度の充実や、保育所などの社会基盤の整備	27 地震や風雪水害、土砂災害に備えた施設の整備・保全	8 障害のある人や高齢者などの暮らしを支える制度や地域の仕組みづくり	2 食の安全確保	
	30.0%	13.8%	12.5%	11.3%	10.6%	

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
女性	20歳代 (N=181)	6 仕事と家庭や地域活動との両立を可能にするために必要な制度の充実や、保育所などの社会基盤の整備 31.5%	3 在宅医療の推進や介護サービス、医療施設の整備 21.0%	13 子育て支援サービスの充実や、母子・小児の保健医療体制の整備 27 地震や風雪水害、土砂災害に備えた施設の整備・保全 20.4%	7 安心して暮らせる地域の防犯・防災体制づくり 19.3%	
	30歳代 (N=318)	6 仕事と家庭や地域活動との両立を可能にするために必要な制度の充実や、保育所などの社会基盤の整備 39.3%	13 子育て支援サービスの充実や、母子・小児の保健医療体制の整備 32.1%	10 子ども一人ひとりに応じたきめ細かな教育環境の整備 23.0%	27 地震や風雪水害、土砂災害に備えた施設の整備・保全 22.3%	7 安心して暮らせる地域の防犯・防災体制づくり 22.0%
	40歳代 (N=361)	3 在宅医療の推進や介護サービス、医療施設の整備 28.8%	26 自転車歩行者道や公共交通機関などの整備 24.4%	7 安心して暮らせる地域の防犯・防災体制づくり 21.9%	10 子ども一人ひとりに応じたきめ細かな教育環境の整備 21.6%	6 仕事と家庭や地域活動との両立を可能にするために必要な制度の充実や、保育所などの社会基盤の整備 19.9%
	50歳代 (N=347)	3 在宅医療の推進や介護サービス、医療施設の整備 32.3%	27 地震や風雪水害、土砂災害に備えた施設の整備・保全 19.0%	8 障害のある人や高齢者などの暮らしを支える制度や地域の仕組みづくり 17.0%	6 仕事と家庭や地域活動との両立を可能にするために必要な制度の充実や、保育所などの社会基盤の整備 16.4%	7 安心して暮らせる地域の防犯・防災体制づくり 15.9%
	60歳代 (N=334)	3 在宅医療の推進や介護サービス、医療施設の整備 40.4%	26 自転車歩行者道や公共交通機関などの整備 22.8%	27 地震や風雪水害、土砂災害に備えた施設の整備・保全 20.1%	8 障害のある人や高齢者などの暮らしを支える制度や地域の仕組みづくり 19.2%	7 安心して暮らせる地域の防犯・防災体制づくり 18.9%
	70歳以上 (N=101)	3 在宅医療の推進や介護サービス、医療施設の整備 42.6%	26 自転車歩行者道や公共交通機関などの整備 27.7%	27 地震や風雪水害、土砂災害に備えた施設の整備・保全 22.8%	7 安心して暮らせる地域の防犯・防災体制づくり 21.8%	8 障害のある人や高齢者などの暮らしを支える制度や地域の仕組みづくり 19.8%

### 【定住意向別】

「住みつづけたい」と回答した人では「在宅医療の推進や介護サービス、医療施設の整備」が最も多く、「住みつづけたいとは思わない」と回答した人では「仕事と家庭や地域活動との両立を可能にするために必要な制度の充実や、保育所などの社会基盤の整備」と「障害のある人や高齢者などの暮らしを支える制度や地域の仕組みづくり」がともに最も多くなっている。

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
住みつづけたい (N=2,476)	3 在宅医療の推進や介護サービス、医療施設の整備 29.4%	6 仕事と家庭や地域活動との両立を可能にするために必要な制度の充実や、保育所などの社会基盤の整備 20.0%	7 安心して暮らせる地域の防犯・防災体制づくり 19.4%	27 地震や風雪水害、土砂災害に備えた施設の整備・保全 17.8%	26 自転車歩行者道や公共交通機関などの整備 16.5%
住みつづけたいとは思わない (N=110)	6 仕事と家庭や地域活動との両立を可能にするために必要な制度の充実や、保育所などの社会基盤の整備 8 障害のある人や高齢者などの暮らしを支える制度や地域の仕組みづくり 23.6%	7 安心して暮らせる地域の防犯・防災体制づくり 22.7%	3 在宅医療の推進や介護サービス、医療施設の整備 21.8%	13 子育て支援サービスの充実や、母子・小児の保健医療体制の整備 20.0%	
どちらともいえない (N=524)	26 自転車歩行者道や公共交通機関などの整備 22.3%	3 在宅医療の推進や介護サービス、医療施設の整備 19.8%	27 地震や風雪水害、土砂災害に備えた施設の整備・保全 18.3%	7 安心して暮らせる地域の防犯・防災体制づくり 17.6%	6 仕事と家庭や地域活動との両立を可能にするために必要な制度の充実や、保育所などの社会基盤の整備 16.0%

(5) 住み心地

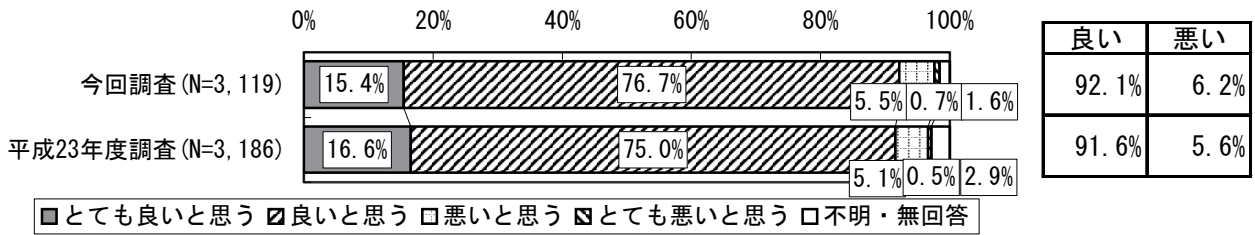
問10 あなたは、滋賀県の「住み心地」についてどう思いますか。あなた自身の気持ちに最も近いものを選んでください。(○は1つだけ)

◆「良いと思う」が76.7%

滋賀県の「住み心地」については、「良いと思う」が76.7%で全体の4分の3以上を占め、次いで「とても良いと思う」が15.4%となっている。

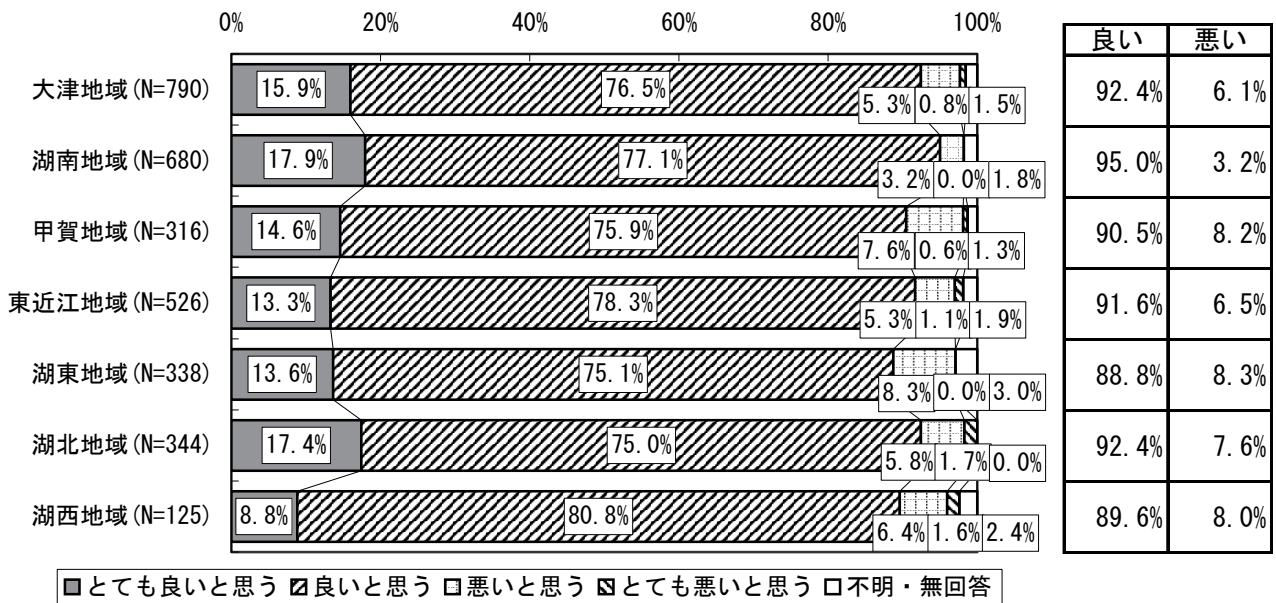
『良い』（「とても良いと思う」と「良いと思う」の合計）は92.1%、『悪い』（「悪いと思う」と「とても悪いと思う」の合計）は6.2%となっている。

平成23年度調査と比較すると、『良い』は0.5ポイント増加し、『悪い』も0.6ポイント増加している。



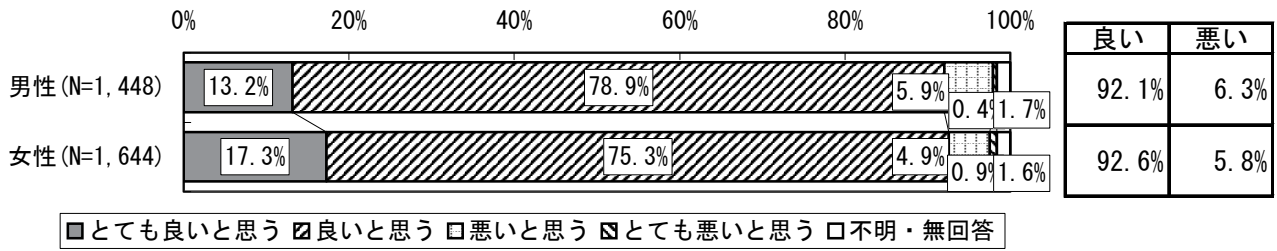
【地域別】

『良い』は、湖南地域が95.0%で最も多く、最も少ない湖東地域でも88.8%となっている。



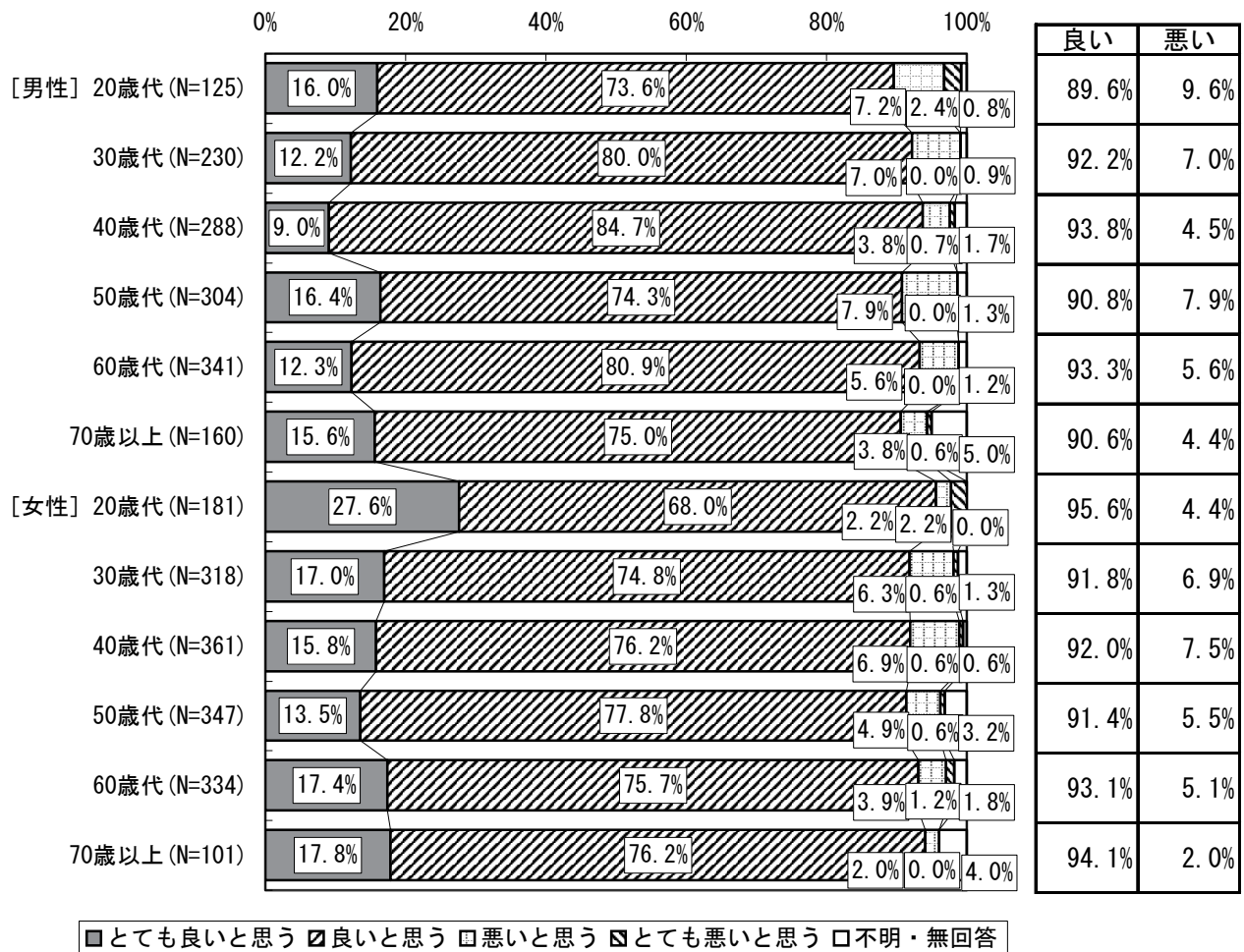
【性別】

『良い』は、男性が92.1%、女性が92.6%となっている。



【性・年代別】

『良い』は、男性の20歳代で89.6%となっているが、その他の性・年代では9割を超えており、女性の20歳代が95.6%で最も多くなっている。



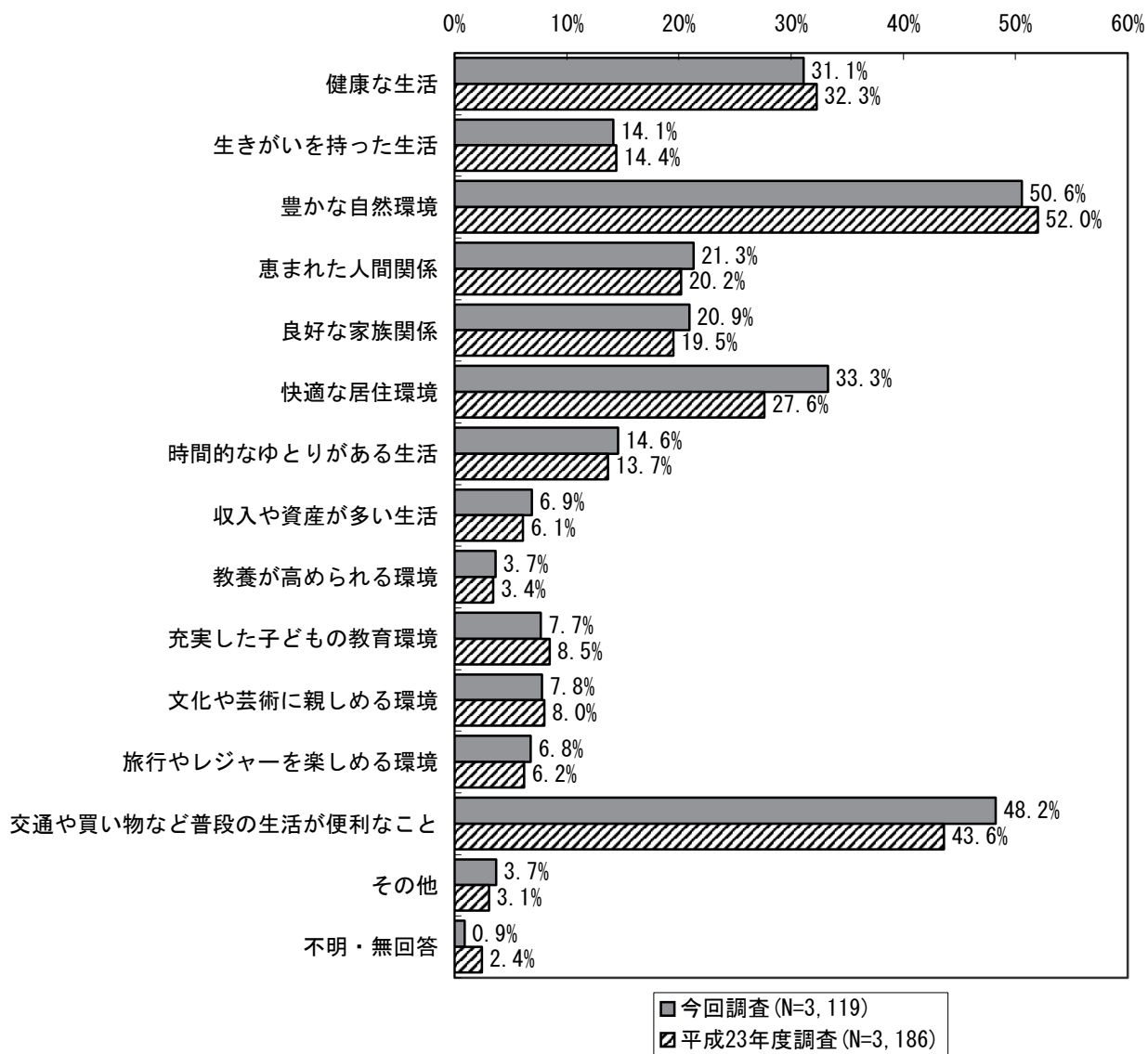


問11 あなたにとって、「住み心地」の良さにつながるのは、どのようなことですか。(〇は3つまで)

◆「豊かな自然環境」が50.6%、「交通や買い物など普段の生活が便利なこと」が48.2%

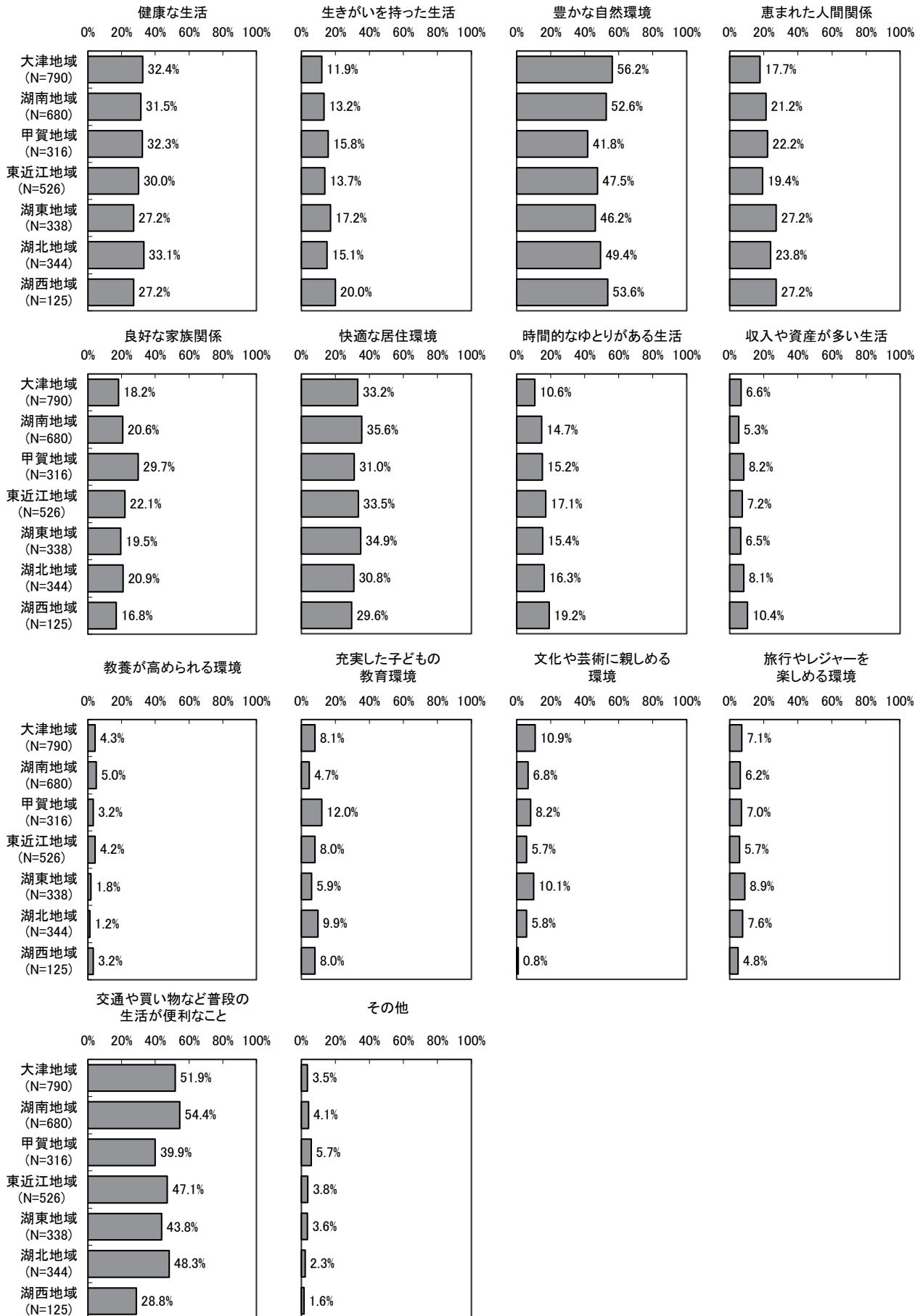
滋賀県の「住み心地」の良さにつながることは、「豊かな自然環境」が50.6%で最も多く、以下、「交通や買い物など普段の生活が便利なこと」が48.2%、「快適な居住環境」が33.3%、「健康な生活」が31.1%と続いている。

平成23年度調査と比較すると、「快適な居住環境」が5.7ポイント、「交通や買い物など普段の生活が便利なこと」が4.6ポイントそれぞれ増加している。



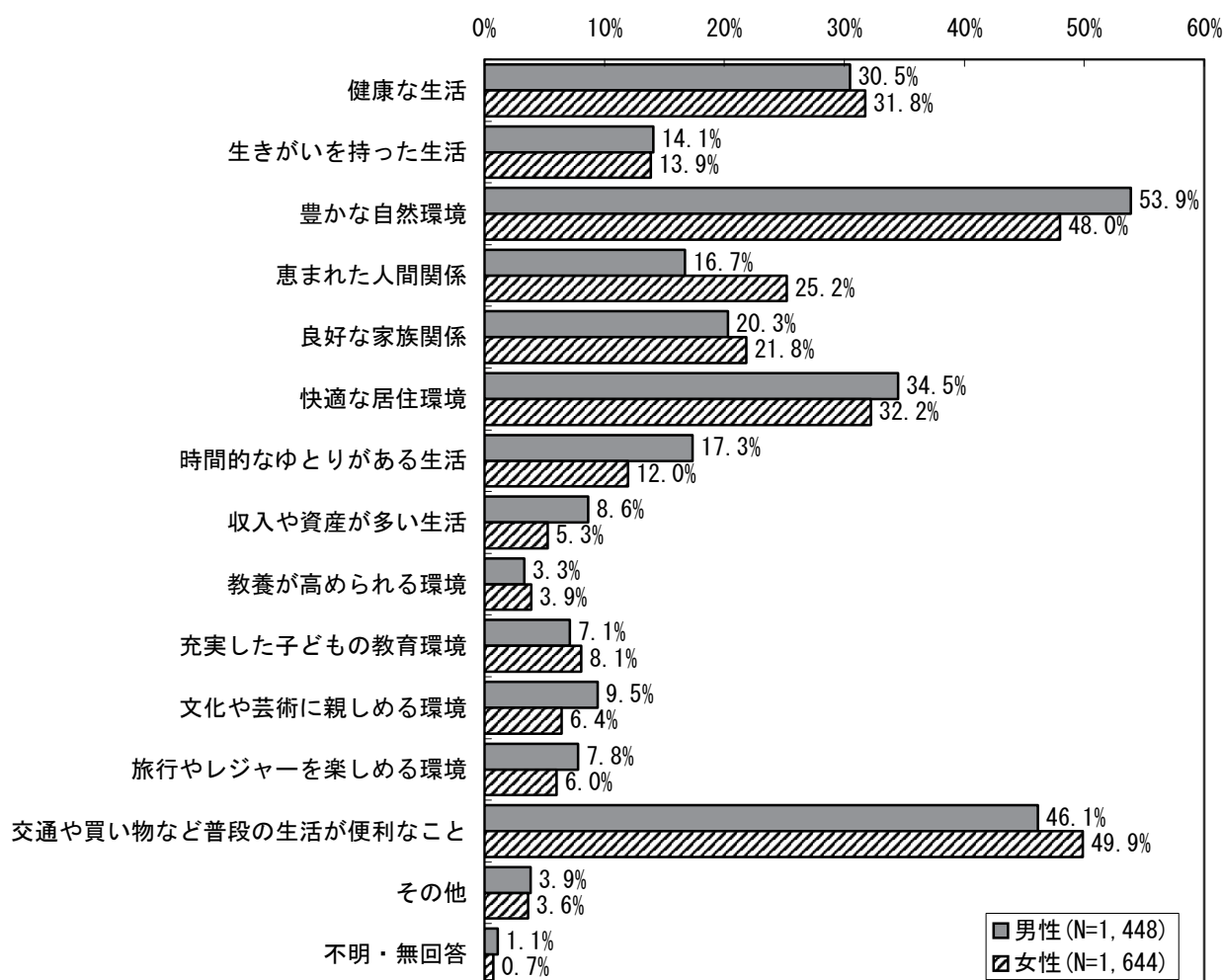
【地域別】

大津地域・甲賀地域・東近江地域・湖東地域・湖北地域・湖西地域では「豊かな自然環境」、  
 湖南地域では「交通や買い物など普段の生活が便利なこと」が、それぞれ最も多くなっている。



## 【性別】

男性では「豊かな自然環境」、女性では「交通や買い物など普段の生活が便利なこと」がそれぞれ最も多く、これらが男女ともに上位2項目となっている。以下、男女ともに「快適な居住環境」、「健康な生活」が続いている。



## 【性・年代別】

男性のすべての年代と女性の50歳以上では「豊かな自然環境」が最も多く、女性のその他の年代では「交通や買い物など普段の生活が便利なこと」が最も多くなっており、性・年代に関係なく、これらが上位2項目となっている。

